

して居るので、小露はその獨立を保持すべく何れか一國に倚據するの外なかつたのである。茲に於て、フメリニツキーは「獨立戰爭に疲弊困憊せる小露國民は莫斯科に倚據することによつて暫時の安息を得るであらう」といふので、一六五四年所謂ペレヤスラフ條約を締結することゝなつた。處がフメリニツキーが早世したので、小露國家の鞏固性と、カザーク國家の保安は一大打撃を蒙ることゝなつたのである。

共和國的に又貴族的傳統の下に教養されて來たカザークの頭領連は、一般國民を自己に従屬せしむるの才能に乏しく、一大獨立運動を完成すべき能力に缺如して居た。この間隙を利用した莫斯科の煽動は、小露國民を驅つてその長老に反抗せしめ、延ては内亂を助長せしめて小露國民の反撥心を滅却しつくし、遂に莫斯科はその保護制度を擴充して小露領土を露國の一部に併呑し去つたのである。小露の歴史上「衰頹期」の稱あるボグダン以後の時代は悲惨の極であつて、自民族を莫斯科の勢力より解放せしめやうとする諸運動は漸次壓迫を蒙るに至り、遂に完全なる奴隸状態に墮し了つたのである。

【五】處が十八世紀の初頭、瑞典王カール十二世の露國進撃を機として小露解放の曙光が見えた。當時カール王は沿波爾的地方を占領しつゝ深く露國内部に侵入したのである。當時の小露哥薩克軍の頭領イワン・マゼバは、莫斯科に反しカールに合體すべき計畫を持つて居たけれども、一七〇九年ボルタワの敗戦は小露獨立運動に決定的運命を與ふるに至り、マゼバ及び其の後繼者オルリク共に流刑中に死歿してしまつたのである。斯くて小露獨立運動は逐次國家的犯罪と見做さるゝに至り、頭領トルーボクトの惨死、マゼバ黨員の西伯利追放となり、最後にゲートマン制及びザポロージ網（小露哥薩克村落）の廢止を見ることゝなつた。（一七七五年）

こうして小露國民の武力團體と智識階級は根絶の姿となり、小露獨立問題は根底的に絶滅の状態に立至つたけれども、折から小露國民の意氣を表現すべき國民文學は勃然として發生したのである。當時の文豪に、ヤン・コトリヤレフスキー、クライトコ・オスノワネンコ、ゲーラク、アルテモスキー等がある。彼等は小露語を以て國民精神を説き、性時の小

露國民の自由と獨立を懐古したのである。就中大詩人タラス・シエフチエンコ（一八一四—一八六一年）は小露國民の愛國心を喚起すること顯著なるものがあつた。

【六】一九一四年世界大戰が開始され、次で露西亞革命が突發するや、小露人の獨立熱は高潮に達した。處が露西亞（大露）民主主義者は帝制政治の舊劃に據り「先づ平和、次に制度改正」と叫び出したのである。しかし小露人の獨立自由の精神は微温的態度を以て満足するものではない。一九一七年四月初旬キエフ市に「全小露國民中央議會」ツェントラリナヤラータ）なるものを召集し小露國民の代表者として約一千名の參集者があつた。本大會の議長は彼の有名なシモン・ペトリウーラで、大會の決議した要求は左の如きものである。

イ、國民的領土的小露の自治

ロ、露西亞を聯邦組織に改編す

ハ、共和制確立

ニ、小數民族の權利確保

而して革命直後、露都に於て露國建設議會の召集に際してはこれに参加することを拒絶し、更に一九一八年一月二十二日遂に小露自治國の獨立を宣言した。

右の如き小露の斷乎たる決心は遂に露西亞臨時政府をして、何等かの方法によつて協調を必要とすることを認めしむるに至り、臨時政府代表、特にケレンスキーのキエフ旅行となり、種々交渉の結果、小露のため最高政府機關として國務院を設け、小露中央議會は建設議會に小露自治に關する議案及び小露土地法案を建議するの權利を保留して一段落を告げ後、軍務、司法、交通、郵便は全露政府の一般管掌とし其他は小露政府に處理せしむることとなつた。

【七】臨時政府が失脚して過激派が政權を掌握すると共に、小露は事實上分離獨立するに至り、中央議會は天下に宣言して小露國民共和國の建設を布告したけれども、財源の崩壊、國家支配のため必要なる社會訓練の缺如、社會團體勢力の缺乏、諸般の混亂、無秩序等の

結果キエフは遂に過激派の手に歸するに至つたのである。

〔八〕 爾後種々の経緯を経て三年間の國內戦争を通じ、キエフは二十回もの政權交立に遭
遇し、遂に露西亞共產黨の平定する處となつた。以來小露は外見上自治を有して居るけれ
ども實質上莫斯科の主義方針に基き支配されつゝあるのである。

三、小露の領域と人口

小露人は概して左の諸縣に居住して居る。

キエフスカヤ

ウオルィンスカヤ

ポドリスカヤ

ポルタフスカヤ

エカテリノスラフスカヤ

ハリコフスカヤ

ヘルソンスカヤ

其他隣接諸縣の一部

居住地域は七五〇〇、〇〇〇平方籽で内六六四、〇〇〇平方籽は舊露國領土に約六〇、〇〇〇平方籽は東部カリチャ（現在の波蘭領土）殘餘の約一五、〇〇〇平方籽は舊匈牙利領に屬して居る。随つて人類學的見地による小露は、歐洲内に於て大露に次ぐ政治的面積を有するものと云ひ得べく、その地域は佛蘭西に比し約一倍半の大きさを示して居る。而して現在前記人類學上小露地方とされる地域内に於ける小露人口は、三千三百萬乃至三千四百萬を算して居るが、この外、西伯利其他に多數の小露人が居住して居るので、全世界に散在するものを合すれば、小露人の總數は四千萬に達するであらう。但し、現在の小露共和國のみに於ける人口は二千八百八十九萬餘である。

四、民族及び言語

小露人は明に大露人、波蘭人とはその體格に於て異つたところを持つ。て居る波蘭人の平均身長は一・六五四米、大露人は一・六五七米、小露人は一・六七米となつて居る様に先

づ身長に於てこれだけの差異があるが尙ほ専門的に研究すれば、胸骨及び、頭蓋骨にも多少の差異があると稱されて居る。

更に著しい特徴としては言語の相違である。既に久しい以前全露學術學會は、小露語を以てセルビヤ語、チエツク語、波蘭語等と同列にスラブ語系中の獨立語として承認し、其の決議に於て、小露語を單なる大露語の一方言と見做すことの誤謬を指摘し、同時に小露人は國民として大露國民の分派に非ずして、堂々たるスラブ民族中の一獨立の國民であると認識せられたのである。

五、小露の經濟的價值

▲富源 天然の資源に富む小露は、既に久しい以前から内外人の着目する處ではあつたが、永い間大露人の支配下にあつた關係上、大露人經濟家、政治家の所謂、小露の富源は大露と緊密なる握手協力の下に於てとなければ其の開発を期待し得ない、といふ議論をそのまゝ、肯くの外はない状態に置かれて來た。

▲農産物 一九〇九—一九一三年の平均農産額を示せば實に左の如く、明かに歐洲の穀倉たるの名に反かないのを見る。

種別	噸數	世界全産額の%	世界に於ける地位
小麥	六、七四三、〇〇〇	六・七	第五位
裸麥	三、九一〇、〇〇〇	八・五	第三位
大麥	四、四四五、〇〇〇	一・三〇	第二位

此の外燕麥、馬鈴薯等の産額も世界的なものである。戦前小露から歐洲各國に向つて輸出した穀物の量は夥しいもので、他の何れの國もこれに匹敵するものはなかつた。

戦前に於ける中央並に西部歐羅巴の粒穀需要額(輸入額)は、一千九百五十萬噸であつて、その供給地別に數量を示せば

小露	一・七%	大露	八・九%
ルーマニア	八・〇%	匈牙利	七・五%
勃牙利	一・八%	其他の諸國より	三・五%

となる。中央並に西部歐洲の輸入數量が全需要數量の四七・三%として、内一七%は實に小露より供給したものである。爾餘の二七・八五%は各植民地、英帝國屬領よりの移輸入であり、二四・四は北米及びアルゼンチンよりの輸入に俟つたものである。

然るに革命内亂の結果、莫大なる小露及び大露の穀物輸出能力を皆無に歸せしめたので歐洲穀物市場の需要總額の僅かに三%がユーゴ・スラウイア、ルーマニア、波蘭より輸入せられ、三〇%が各植民地、屬領より移輸入せられるものとして、北米及びアルゼンチンよりの輸入額は戦前の二四・四%より一躍六六・七%といふ激増を見ることゝなつたのである。

以上は單に穀物のみ就てあるが、この外煙草の生産に於ても小露は世界産額の第四位を占め、一九〇一—一九一〇年の平均統計によれば、實に年産額五萬噸を超えて居る。又砂糖の産額に於ても、二百の製糖工場を有し、世界全産額の二六%に達し、年産額一千七百五十噸、世界の第二位を占むるものである。

▲礦業方面 一九一〇—一九一五年の平均統計によれば、ドネツキー流域の炭田は年産額十六億二千六百萬布度であつて、露帝國全産出量八五%に相當して居る。尙從來、地質研究所の算定によれば、小露炭田の開発區域は全炭礦區の一三・二六%にすぎず全礦區の面積は正に二一七・六二〇デシヤチンであつて三百七十六億布度の無煙炭、百八十億布度の優良炭を埋藏すると言はれて居る。

次に製鐵業に於て又偉大なる價値を有して居る、クリウオイ・ローク地方に三萬三千デシヤチンの礦區を有ち、その埋藏礦量は二億二千五百萬噸、礦石は極めて良種のもので含鐵量七〇%と稱せられる。一九一六年の調査によれば該地方のみで、三億一千四百三十四萬布度の製鐵額を示して居る。

六、小露獨立の可能性

▲民族 大露人は一概に小露人を以て大露人の一分派のやうに論ずるけれども、小露人側には言はずれば、大露人こそスラブ族と韃靼族との混血兒であつて眞のスラブ族ではない、

といふので蔑視するのである。その當否は別として、小露人が特にその言語の特殊性よりしても、スラブ族中の一獨立民族であることは確實である。

▲人口 小露の民族的全人口は約四千萬（小露共和國領域外を含む）と稱せられて居る。これは一民族の人口としては大なる數である。若し夫れ彼等が一の嚴然たる統制を以て支配せられることとなれば一―大勢力たること明かである。

▲邦土 小露人の種族的分布地域は、前述の如く佛國面積の一倍半に相當して居る。假りに其の邊疆地方を他民族に割讓するとしても尙且佛獨とその面積を競ひ得るであらう。

▲經濟力 小露の經濟力は昔に過去の帝政露國、現時のサウエート露西亞の補給原點乃至寶庫としての意義を有するのみならず、其の全歐洲に對する影響は蓋し絶大なるものがある。

▲歴史 小露の歴史は完全なる獨立の歴史ではなくて從屬の歴史である。而してこの從屬的歴史を辿るに至つた主因は、その土地が豊饒なるがためである。さればこそ先づ第一に

亞細亞遊牧民の侵襲を蒙り、爾後大露、波蘭兩國の爭奪の目標となつたのである。これは恰も支那歴史に於て、南方漢民族が常に北方蠻族の侵襲と支配を反覆して蒙つたことに酷似して居る。元來大露人の根據地たる中央及び北露地方は、土地貧弱であつて自民族を養ふに足らないのであるから、それが帝制であると共産制であるとを問はず、小露を自己藥籠中の給養資源として掌握し、絶対に手離すまいと努むるのも、大露人にとつては實に死活の問題として止むを得ないのである。この大露人が小露の諸都市に蟠居して、政治的經濟的に將又武力的に支配權を發揮する限り、他に何等か強勢なる力を以て之を支援するものゝない限り處女の如き小露の獨立が至難であつたのは當然のことであつた。

露西亞革命後、芬蘭、エストニア、ラトウイア、リトワ、波蘭等は獨立した。この内リトワ、波蘭の歴史中に獨立の事實があるにはあるが、多くは從屬の歴史に富み、殊にエストニア、ラトウイアに至つては何等獨立の歴史を見ないのである。それでも彼等は目下貧弱ながらも一個の獨立國家として自治自存して居るのである。これは抑々何に因るのであ

らうか？……英、佛等の支援は利として、これ等の地方が小露に比し、必ずしも露西亞全體の存否を決する程の價値がなかつたためではないか……

小露がその言語、人類學上に於て、大露、白露、波蘭、チエツク等と對等なるスラブ人種系中の堂々たる一民族であることを證明せられた以上、又民族自決が動かす事の出來ぬ眞理として承認せらるゝ今日、彼等の莫斯科に對する反抗、特に革命以後一九二〇年に至る彼等の努力の實際（その不成功は他の理由による）に鑑み、小露が歴史の考察の上から將來も獨立することは出來ないものである。と斷定することは果して至當であるだらうか。

▲文化、國民性 若し小露の文化の低劣、國民性の宿命的偏倚とを理由としてその獨立不能を論ずるものがあるとすれば、それは明かに誤謬である。小露文化の低劣と、國民性の特殊なるは、それ自體の本然的現象ではなくて、露西亞即ち大露政府の人爲的政策によつて斯の如くなつたものと見做さなければならぬ。何となれば小露國民の智的能力はその智識階級に於て、毫も大露人に劣るものでないことを實證して居るからである。國民性

が稍反撥心に乏しいのは之れを認めなければならぬが、それも悲惨なる小露の民族史を回顧する時は又止むを得ざるものとされるのである。要するに小露の歴史及び文化、國民性等はその將來を悲觀せしむるに足る資料に富んでは居るが、その主因は小露の地理的關係にあるのであつて、加之小露從屬の歴史も僅かに五六百年位にすぎず、その間強力なる露國帝制の威力に壓せられて居たものであるから、大露の帝冠が墜ちた今後の小露の運命は、必ずしも過去の歴史等のみで判斷することを許されないであらう。然し乍ら現状より推す時は、尙獨立問題に直面して幾多の難點があることは否むべからざる事實である。

七、小露獨立の難點

▲小露在住の民族 小露共和國内居住の各民族の比例を示せば

157	
純小露人	八五・五%
大露人	五・五%
猶太人	四・〇%

波蘭人	各一・五%
モルドウイア人	
タタール人	
勃牙利人	
希臘人	
}	
小	數

右の如く、小露に於ける他民族は總計五百萬人で全人口の約一五%に當り、その内二百二十萬人は大露人でこれは主として都會に在住して居る。一體都會は一國政治、經濟の中心として重大なる役割を演ずるものであるから、小露に於ける他民族の活動はこの國土に及ぼす影響實に大なるものがあると言はねばならない。就中大露人及び猶太人の各都市に於ける勢力は牢固として抜く可らざるものがあり、實に偉大なるものであつて、その支配的實権は全く彼等の掌握する處となつて居るのである。即ち延いては小露一國を左右する力を持つて居ることとなるのである。しかし彼等はこの國土の小露化に好意と同情とを持た

小露人	一五八八
猶太人	一七六八
大露人	二五八八
其他の民族	三五八
といふ割合である。尙小露高級官廳専門家五二三人中	
小露人	一五九八
大露人	一六六八
猶太人	一七二八
其他の民族	二六八

右の如き數字を示し、尙官吏全員の百分率を示せば（昨年未勞農監督省長ヲルジヨニキゼ

ない。のみならず彼等はあらゆる手段方法を講じてその實現を阻碍しつゝあるのである。
▲小露共和國行政機關の内容　こゝに於ても亦他民族が幅を利かし、指導的立場にあるのを見る。即ち小露共和國政府部内の高級官吏五六〇人中

公表)

	首府	共和國全般
大露人	三三・四%	一七・二%
小露人	三〇・五%	五四・三%
猶太人	三〇・三%	二二・六%
其の他	五・八%	五九・一%

となつてゐる。これは小露國內各機關、各部門に於ける現象であつて、試みにこれを教育方面に就て見んか、高級教育機關を通じ小露人學生は全就學青年の四四%に過ぎないといふ實狀である。

▲小露内の軍隊 尙軍隊に於ても、これは理論上「地方軍の組織(民兵制度)」によつて編成せられることになつては居るが、事實は遠國より派遣せられた基幹軍隊によつて成立して居るのであつて、小露人出身のものは全兵員の四五%にすぎず、將校に至つては僅か一〇%、しかもその多くは司令部若くは本部勤務といふことになつて居る。従つて小露軍隊

の小露化といふ小露人の希望とは相背するの現状である。

▲獨立運動彈壓 首都ハリコフ軍管區司令部(殆んど全部大露人將校と猶太人コミツサールより成る)の如きはあらゆる方法を以て、小露化運動に彈壓を加へつゝあるといふ。また小露國內在住の大露人、ラトウイア人、支那人、リトア人、獨逸人等より成る特別任務部隊といふのがあつて、隊員約七千名を有して居るが、これは小露獨立運動に對する監視、防衛に任じつゝあるものである。

▲農民反抗運動對策 中農、自作農を中心とする農民の積極的反抗運動を麻痺せしむべく、露西亞過激派は所謂極貧農民委員會を組織し、これを據點として村落支配に任じやうと試み、一時は百五十萬の會員を集め得たが、最近に於てはその内百萬人の會員を失ひ、殆んど無力に歸してしまつた。

八、露國革命後に於ける小露獨立運動と批判

露西亞革命以後、完全なる小露の獨立を標榜する運動はなかつたけれども、完全なる自治、乃至一國保護權の下にある種の獨立を一階段として獲得せんとする運動には熾烈なるものがあつた。

獨逸軍が一八一八年プレスト講和條約後小露を占領するや、一時國民主義的、社會主義的農政方針を支持するラーダ制度を承認したが、後この制度が獨逸の戰時經濟遂行に支障あるのを見るや、スコロバツキー將軍を頭首とするゲートマン（頭領）制を布き小露の半獨立を支援することとなつた。處がこのゲートマン制なるものは依然として貴族富豪階級を本位とする農奴制の延長にすぎず、小露の獨立一般民衆の自由解放を目的とする小露農民の推服する處とならず、遂に獨軍の撤退と共にこの制度は崩壊し、ラーダの殘黨が再び擡頭するに至り、小露地方軍隊の頭領シモン・ペトリウーラのキエフ占領となつた。

右第一次ラーダの失敗は主として獨軍の武力によるもので、ゲートマン制の崩壊は小露に於ける貴族制度の不可能を物語るものである。随つてこれ等の事實は小露國民全體の獨

立能力を否認する資料とはならない様である。

ペトリウーラを頭首とするラーダの運動が、小露國民特に下層農民大多數の支拂を得たに係らず、一九一九年初頭赤軍の南下と共に一たまりもなくどうして崩壊するに至つたかこれには種々な原因が潜んで居るので實に興味多い問題である。

ハリコフ、キエフ等を占領したペトリウーラは正に得意の絶頂にあつた。速に小露領域の小露化を實現せんものと、國內に於て一方大露主義と戦ひ、他方猶太主義と惡闘し、遂に勢の趨く所一大ボグロム（猶太人虐殺）の敢行とさへなつたのである。一昨年シユワルツバルトなる猶太人のため復讐的暗殺に遭ふの因を作したものである。これといふのも彼等被壓迫民族の悲しさ事を擧げるに充分なる準備を缺き、その上あまりに効を急ぎすぎたために招いた失敗で、その結果は小露都會の支配者たる猶太人、大露人を驅つて露國過激派に走らしめることとなつたのである。若しペトリウーラの第一次擧兵が久しい前から組織的に準備されて居たならば、都會の大露人や猶太人を敵とせず済んだことと思はれる。

然し乍らレーニンを主腦とする過激派が、小露がラーダを中心とする獨立國として、嚴然莫斯科政權外の南方に聳立するのを黙過すべきであるまい。蓋し小露を抛棄して大露の存立は到底覺えないからである。之れ即ちレーニンが農民に同情して暫く小露に向つてする作戦を手控へさせたに拘はらず、一九一九年突如南方に兵を進めるに至つた所以である。

一九二〇年、ピ元帥とペトリウーラの聯合軍がキエフ占領後忽にして敗退したのは、右兩軍の聯合を以てしても尙赤軍の武力に匹敵し得なかつた事實を示すもので、決して思想的、政治的意味に於ける敗北ではないのである、要は武力の問題であつた。

上述する處によつて、小露の獨立を不可能に終らしめた事として感得されるのは、小露自らが獨立すべく未だ準備不充分であつたこと、第三國が獨立に關し何等理解と同情を以てこれを支援しなかつたこと、露西亞の武力と共產黨の組織とが小露にその希望達成を許容しなかつたこと等を擧げることが出来る。

しかし小露人の獨立熱、反大露精神は仲々熾烈なるもので、若しこゝに第三國が——特

に隣國に對して利害を有する強國——こゝに着目し積極的にこれを應援する場合があるとすれば、小露の獨立は絶対に不可能とされないばかりでなく、藉すに相當の年月を以てすれば、小露國家は決して砂上の樓閣ではないと思はれる。唯この時期の到來如何が問題である。——完——

極東移民と猶太人の安住地

極東洲移民管理局では今年度、歐露からの移民五萬五千人を收容する準備に着手し、その費用として七百十四萬留を計上した。興凱湖畔の低地開拓には特に力を注ぎ二百家族をこの方面に移住せしめ、水田を經營させる方針である。外に猶太人十萬家族を極東に移住せしめ猶太人の安住地を極東につくり上げる計畫も樹てられてゐる。

小露雜觀

一、小露獨立運動の新團體

——波蘭に於て組織——

波蘭のコウエル市に召集されたウクライナ國民黨員大會の決議により、ウクライナ國民黨員會と稱するウクライナ民族より成る新團體が組織された。委員會は波蘭東部地方住民間に民族的自覺を促進するを以て目的としてゐるものであるが、コウエルの大會に出席した同志は、ウクライナ國民黨者諸團體代表五十名であつたが、大會は亡命ウクライナ人の會合ではなく、所謂波蘭駐在ウクライナメニシエウイキの會合を標榜したもので、最初演壇に立つた執行委員長コワレフスキー氏（ベトリユロフ内閣の閣員でその後波蘭メニシエウイキの群に投じ大立物となつた人物）は演説中

一九二六年よりウクライナ國民黨者の結社が組織され、その後ウクライナ獨立を希望する同志のみが團結し來つたものである。今日までウクライナの羅馬建設の希望に向つて努力しつゝあるが、鬭争の手段に於て統一を缺いで居つた。我等の門は現在革命的手段と漸進的手段を以てすべしとの二派に別れてゐる。

と聲明したが、コワレフスキーの言ふ革命手段とは、波蘭に在住するサウエート露西亞に好意を表するウクライナ團體ではなく、ウクライナ人の利益のため過激なる手段をも辭せざることを主張する一派の意味であつて、兩派共極端に猶太人排斥に努めてゐるものである。

大會はウクライナ委員會の黨則及び政治的決議文を裁決し、執行委員を選任したが議長にはコワレフスキー氏が再選し、ポルチエンコ及コフバンスコ氏が常務委員に選舉された。

二、優勢な小露の猶太人

一九一七年十月革命までは、猶太労働者の大部分は反過激派メニシエウイキに同情を寄せて居たが、現在ではメニシエウイキ黨に籍を有する者は一人も居ない。現在ウクライナに於ける猶太共產黨員の数は約二萬二千、猶太青年共產黨員五萬、同ビオネル九萬以上を數へ、二十三萬人以上の猶太人が職業組合に加入してゐる。

小工業、手工業に従事する猶太人五萬三千名は三百二十六の手工藝組合を組織し、金融組合二百七十六、この會員六萬八千人、猶太土地協會は三百二十の支部を設け組合員七萬人を有して居る。十六萬二千の猶太兒童は社會主義教育を施す小學校に通學して居り、技藝學校在學生一萬九千余名、高等専門學校の在學生は八千二百餘名である。

一九二五年度ウクライナに於ける猶太小學校在學生は五萬六千名で、全小學兒童の四十一%に相當した。各主要都市の大部分に猶太語を公文書に用ふる事を許されて居る外、猶太人居住地方には百三十の猶太サウエートを有し、このみは猶太語が公用語として認められてゐる。思想方面にあつては、宗教及びシオニズム排斥が行はれ、重にネツプマン、

大農間に行はれてゐる宗教排斥運動は多大の効果を收めて居り、最近では猶太教の祭日當時猶太手工藝者及び農民中には宗教的儀式を全廢したものが非常に多くなつた。

三、小露も穀物不足

——工業製品も缺乏——

ウクライナ共和國商業省長の發表によると、同國に於ける上半季の裸麥、燕麥、玉蜀黍の買付高は四十五萬九千噸の不足である。尤も小麥だけは昨年度よりも數量だけは多少増加したが、その代りに一般の需要に適しない程品質が粗悪である。かゝる現象は畢竟工業製品の不足のため地方農民が穀物を賣り控へてゐる結果だと認め、政府は工業製品の分配方針を變更し、今後穀物生産地方に餘計に金屬製品だの綿織物類を配給するやうに命令を下した。尙購買組合中央同盟は穀物生産地方に三百萬足の靴を追加配給するやう請願したが皮革シンデゲート側では、到底そんな要求には應じられないと斷つた。

四、第三インターナショナルの内輪もめ

第三インターナショナル執行委員会總會の席上、ウクライナ人共産黨員と露西亞人黨員間に激しい論争が起つた。

ウクライナ派は、ウクライナ獨立運動の擡頭を見るに至つたのは、中央政府の對ウクライナ政策が然らしめたもので、罪は中央政府側の負ふべきものだ、と主張して一步も下らなかつた。大露人側では、そうではないといふので大激論が行はれたが、それにも拘はらず、總會の決議文には全露共産黨の對ウクライナ政策を萬場一致可決したと發表されて居る。しかしこの一件でマヌイルスキー氏は辭表を提出するに至つたと噂されて居る。

五、小露國民共産黨結社

ウクライナ中央執行委員会が先きに解散の決議を行ひ、更に第三インターナショナル執行委員會の裁下を経たにもかゝらず、ウクライナ國民共産黨結社は依然解散する事なく

存在を續けてゐるが、右結社の代表はシユムスキーで、同氏はウクライナ黨機關の解散に對し、第三インターナショナルに書面を發し、現在ウクライナの文化事業は露西亞文化の大迫害を蒙つてゐるから、ウクライナサウエート共和國の權能を擴張する必要がある。この點に關し莫斯科の干渉は不合理であるとの意見を述べた。

ウクライナでは國民共産黨は非常に幅を利かせて居り、その機關は陸軍管内にも設立されてゐる。

◎公債の持出も禁止

中央執行委員會は、貴金屬類、國立銀行貨幣、外國貨幣を自由に國外に持ち出すことを禁止してゐると同様の趣旨で、公債類も大藏省の特別の許可がない限り、一人額面三百留以上は、國外に持ち出すことを禁じた。

黒龍江の沿岸に

猶太共和國建設

黒龍江の沿岸に二百五十萬ヘクタールの廣大な面積を割いて、將來十萬戸の猶太人を移住せしめて、こゝに猶太民族の自治共和國を建設せしめやうとの計畫が、いよゝゝ具體化して今年から實行に着手することになった。

極東露領の面積は二百七十五萬方呎で日本の四倍強、しかも一平方呎の平均人口密度日本の百五十七人に對し僅か〇・六人で、總人口は年々四乃至五%づゝ増加して昨年十月現在で百九十萬八千人しかゐない。領域内には酷寒不毛の地も廣い、村區も九十萬平方呎もある。しかしながら豊富な天産物の外に、廣大な可耕地が人の來り開拓するのを待つてゐる。で五ヶ年四十萬人移民計畫も正式に樹てられた。

歐露の農村は人口既に過剩だと云はれる。この過剩農民を調和するために移植する先きは西伯利と極東露領だとされてゐる。クリミア半島やウクライナに於ける猶太人の農化も、土地の制限のため既に行き詰つた今日、極東に猶太人の集團的の一大移住地を設け、やがて猶太民族の自治共和國を建設するといふことは、けだし自然の成行きであらう。注目すべき事柄であるまいか。乃ちこれに關する材料を蒐めて左に記述する。

歐洲大戰前には現在のサウエーフト聯邦領域内に六百八萬人の猶太人がゐたといはれるが、現在では二百八十萬人……二百六十萬人だとの説もあるが……に減つた。この猶太人が、革命の時にはリーダーとなつて活動し、革命後はあらゆる機關の要路を占めて羽振りを利用させ、所謂追はるゝ民族の猶太人もいよゝゝ露西亞を家とし、こゝに安住の國を定め得た。革命後十年、次第に、殊に昨年來、共產黨の内訌騒ぎのために、トロツキー、ジノウイエフを始め猶太人の領袖連が失脚し、政治界の勢力は漸次凋落したが、經濟機關の中樞では今尚ほ猶太人が實權を把握し、民間の經濟界においても羽振りを利かせ、依然として露西亞の血と膏とを吸ひ取つてゐる……とさへ評されてゐる。

而しながら猶太人の總てが、今尙ド底生活のうち苦惱してゐる露西亞の一般國民を尻目にして優者の位地にあるのでは決してない。實は十分の九の猶太人は喰えるか喰えぬかの境涯にあり、四割五分の者は死んでも葬式も出せまいとさへいはれてゐる。換言すればサウエーフト政府即猶太人のやうに思はれてゐるが、事實は大部分の猶太人は帝政時代

よりは反つて社會的には非常な悲境にあると或る有力者は説いてゐる。で斯様な大部分の貧困猶太人の生活を安定せしめてやることは、内外の猶太同族間は勿論、サウエート政府においても従来少からず苦心を拂ひ、その救済方法の一として貧困者の歸農策が講ぜられ露西亞國內でも一番氣候がよくて、土地の肥沃なクリミヤ半島に六萬露町歩もの土地を與へて、猶太農村の建設も企てられた。また國內諸地方に猶太民族の集團、自治權が與へられ、クリミヤ半島や、ウクライナ共和國內に猶太民族共和國創設の議なども眞面目に行はれた。

これに對して、猶太人にはクリミヤのやうな理想的な地方の土地を與へて、露西亞人の過剩民は西伯利などの遠い、寒い地方に追ひやるのは不公平だとの苦情も昨年來屢々起つてゐた。この結果ばかりでもあるまいが、極東露領の適當の地方に猶太人の一大集團地……第二のバレストアインを建設せうとの議が近年起つた。そして今春いよいよこれが具體化し聯邦政府は黒龍江の上流ビルスコ・ビジャンスキー區に豊富なる森林、石炭、鐵其の他の

鑛區があるといふ二百五十萬ヘクタールの、農耕に適する廣大なる地域が、猶太人の永遠の安住地として提供せられることになつた。サウエート聯邦政府が極東に猶太人の植民地を設定し、そこに猶太農民を糾合移植し、猶太民族自治共和國を創設することに決定したことは、國內は勿論、世界に散布せる猶太人に非常な衝動を與へ、滿腔の感謝を四方から寄せられた。世界各地の猶太新聞は競ふてこれの特筆大書し、地圖を掲げて同族の進んで移住せんことを勧誘努めた、哈爾濱の有力なる猶太新聞も「各地において虐待を受けつゝある我が同族は近き將來この新共和國に蜚集して來るであらう、そして長い歴史の間に自然に涵養された、我が同族の堅忍不拔の精神は、よく新共和國建設の大事業に堪え得るであらう。況んや極東露領は將來ある地で、天與の富源は無盡藏にして、而も開拓は最少限度にしか行はれてゐない。實に這回の福音は從來自由の天地に生活せんがため必死の努力を續けて來た、哈爾濱の同族にも一大光明を與へた感がある……と説いた。サウエート政府はこの新しい猶太植民地の開墾費として今年度は百三十萬留だけ支出することの外、新

道路七十軒開設、舊道路七十軒修築、移民用家屋建築、用具購入の豫算をも決議したといふ。また農事専門家某の言によると今年中に五千ヘクタールの土地と、トラクター五十臺馬八百頭が配給さるべく、三千家族は既に移住を申出で、内半数(二百五十戸は小露西亞、二百戸は白露西亞、五十戸は大露西亞より)は最近出發することになつてゐるといふ。なほ日本から佛國に轉動したドウガレフスキー大使は巴里で

「聯邦政府は黒龍縣内に猶太民族の獨立した行政、教育、コーペラチーフ其の他政府として必要な諸官衙、機關を有するところの猶太民族自治共和國建設の理想を實現すべく、猶太民族が大舉同地方への移住を開始し次第サウエート聯邦の一締盟國としての新共和國の建設に着手する豫定である。

サウエート聯邦内の猶太人はクリミア及びウクライナに於ける専用移民地の設定に非常に満足し、成績も良好であるが、何分土地の制限があつて大規模の移植が困難であるから、農務省で十萬戸の移住に適するビルスコ・ビジャンスキー區を提供すること

になつたので、此の地方は氣候溫和、天をの富源を有し、大部分はハバロフスク市に近く、一部は山地で森林あり、地味も肥沃で、今日まで既に猶太農が五百人ばかり移住してゐる。

聯邦政府が猶太共和國を建設しやうといふ目的は、勞働民衆に自ら自己の運命を開拓せしめんがため、今後十ヶ年の後には諸地方はパレスタインよりも多くの猶太人が住むやうになるであらう。今日でも差し當り三萬五千家族を移住せしめ得る準備が出来、移民一戸に全然無償で二十五露町……パレスタインでは此の面積の地價は一萬米弗もする……の土地を分與する。最近三ヶ年間に聯邦内の猶太人の人口は十六萬五千人を増し、目下總數二百六十萬人ある……

一説には五ヶ年間は一萬二千乃至一萬五千戸の猶太人家族移植の計畫だともいふ。

小露西亞から極東露領に

猶太共和國は可能乎？

◇……巴里の猶太復興派機關誌は冷笑……◇

サウエート政府は黒龍江の流域、ハバロフスク市の上流、ビル・ビジャンスク地方に二百五十萬ヘクタールの地域を割き、將來十萬戸の猶太人を此の地域に移植し、猶太人の自治共和國として、第二のパレスティンを建設せしめることを決定し、既に今年度の移民經費三百十萬留を支出し、第一回移民は既に現地に到着したといふ。

サウエートの駐佛大使ドヴガレフスキー氏などは

「猶太人の新領土たるべき此の地方は氣候溫和、天與の富源を有し、大部分はハバロフスク市に近く、領域内の一部は山地に森林に掩はれてゐるが、地味も非常に肥沃だ」と宣傳した。事實猶太共和國建設の報は一般猶太人間には天來の福音として、各地の猶

太新聞は大に提灯記事を掲げた。在米猶太労働者大會や、遠くアルゼンチンの猶太人などはわざわざ感謝の意を表して來た。米國のジョイント會長は百萬弗とかの寄附を申し出た等々と盛んに傳へられた。

全世界の猶太人舉つて歡喜、感謝しつゝ居るかに見ゆる此の新計畫が、順調に進捗して、果して所謂猶太共和國建設の理想を達し得るかどうか、頗る興味ある問題であるが、茲に巴里で發行される猶太復興派の機關誌ラズスヴェート誌上に、此の計畫を以てサウエート政府の羊頭狗肉のベテン政策だと横槍を入れた論文が現はれた。サウエート政府の熱心な猶太民族の農業化政策……今に始まつたことでないにしても……移民政策の不振なことや新植民豫定地の状態などが種々説いてあり好資料と思ふから、こゝに紹介する。

◇……小露西亞の猶太人植民の行詰り……◇

ウクライナやクリミヤ半島地方に、猶太人の植民地を設けるといふことに對し、樂觀論者は一齊に、「その地方なら土地が肥沃で氣候がよくて、猶太移民に分譲出来る土地も廣い

から前途大に有望だ」と一も二もなく早合點してゐるやうだが、さて實地を見ると棚牡丹式の机上の空論なることがすぐと暴露される。

今から二年前、農務省から發表された國內移民事業に関する調査報告の中にポリシヤコフ博士は

「國內で農耕に適する空地面積は移民百萬人分は優に在る。ところが西伯利移民を中止した關係で土地が必要になつた者や、農村人口の増加で土地の狹隘を感じるやうになつた農民の數が一千萬人にもなつた」

と報告してゐる。また千九百二十五年春季ウクライナだけでも新たに土地を必要とする農民が八十萬人もあると、當時公表された位ひである……ウクライナには猶太人のために廣大な土地を分與すべく、準備既に成れりとか、猶太民族の新樂園はウクライナだとか盛んに宣傳された……そのウクライナが此の有様である。で一昨年十一月の第一回聯邦猶太農會大會でベラリン氏も

「次年度、猶太人に分與し得べき土地は約千家族分しかない。尤も耕地整理や開墾をやつたら今後數年間に多少の耕地を得る見込はあるが、一般的にいふとウクライナの移民向きの土地は殆んど盡分済となつてゐるから、猶太民族の植民地としての價値は一ニケ年で消滅するであらう」

と言明し、間もなくウクライナに於ける猶太人への土地分與が中止された。此の分與中止に對し政府當局に抗議はして見たものゝ、猶太人に土地を與へるなんてウクライナ人にはとても言はれた義理じやない」と頗る簡單な返辭だ。ウクライナに猶太人の植民區域建設なんて一時盛んに宣傳された移民事業も、二十五年から二十七年までの三ケ年間に、僅か七千八百六十六家族に十二萬五千露町歩……猶太植民地に割當てられたといふ土地の僅か七%を分與されたばかりで、遂に有耶無耶に葬り去られたのである。

換言すれば「猶太植民十萬人移植」だの「猶太共和國建設」だのと人氣取りの宣傳だけは盛んであつたが、今年一月十九日の政府機關紙も「剩餘土地は全部提供済みで、今年度

猶太人に對する土地分與は僅か千二百人分だ」と報じたやうに、猶太人のウクライナ植民は遂に骨抜きとなり「猶太民族の解放」「猶太民族經濟の建て直し」「猶太民衆土地に親しむ」などの標語は畢竟口頭禪に過ぎなかつたのである。

◇……極東の新植民の將來はどうか……◇

ウクライナやクリミヤ、その他南露方面での猶太植民に忽ち行き詰まつたサウエート當局として……土着民と猶太人との間に紛擾の起ることを甚だ恐るゝところの……尙ほ「猶太人よ土地に親しめよ」の標語を振り廻はすならば、土着民の居ない、従つて何等問題の起りやうのない、無人の處女地を捜し求めて與へる外はない。で彼地此地と詮議した揚句、サウエート政府は遠い西伯利の、二萬七千三百四十四人（一露里平均一人）しか現に住んでゐないビル・ビジャンスク地方を選定したのである。而してかゝる思想、計畫は何もホリシエウイキの新案でも何でもない。實に亞歷山第三世時代の開員の間につたのである。一八八一年猶太人虐殺の行はれた直後、猶太人代表は國內何れかに安住の地を求むべ

く、時の内相イグナチエフに請願するところがあつた。之に對し内相は翌春オルシヤンスキ博士に

「國內に於ける猶太人移住地に關する貴下の請願に對し、政府としては土着民との紛擾を避けることに留意してゐるので、猶太人の安神して生活出来るやうな、適當の土地選擇方を提言して置いた」

と答ふるところあり、三ヶ月後になつて、中央亞細亞の新領土オアジス・アハル・テケに限り猶太人の移民を許す旨、内相の言明を得たのである。

ところが四十五年後の今日、露西亞の猶太人はこれに似た聲明を聞かされた。前のは中央亞細亞であつたが、今度のは東部亞細亞だ。が四十五年前でさへバクス博士は帝政々府の處置に對し「遠い處に島流しも同様な憂き目を見せられるのは、一種の政治犯人扱ひだ」と難じ、マンデリシテイン博士も「之れ更らに猶太人に加へられる壓迫に外ならぬ」と憤つたが、今日ビル・ビジャン送りも之と一寸も異るところがない。

何となればビル・ビジャンは滿洲の國境、猶太人の住んでゐる處から九千軒も離れ、浦鹽から九百五十軒、ハバロフスク市からさへ汽車で數時間もかゝる土地だからだ。加之、氣候が甚だ悪い、酷寒の時には零下四十度にも下り、眞夏でさへも三十三度より上らない、夏はしめつぽく、冬は寒い。其の上蚊やあぶの大群が襲撃して來るので、流石に呑氣無頓着な露西亞の百姓でも此の「樂園」には近寄らない。だから土地はクリミア半島よりも廣いが、人間はたつた二萬七千人しか住んでゐないのである。

だからなんぼ猶太人でも、そんな處に行つて生計を營み得る筈はない。一體何處の植民地行きでも、猶太人は棚牡丹式の甘言に乗せられて、後で後悔するのが昔からの例だ。帝政時代でさへ猶太植民問題は有名無實に終つた。況んや今日ビル・ビジャンの移民に於てをや、同じ運命は我が同胞を待つてゐるであらう……。

極東露領の現在

第一章 内政

一、行政組織

極東地方最高の統治機關は、一九一六年一月行はれた極東地方行政區劃變更に伴ひ同二月選舉された極東地方執行委員會で、舊極東革命委員會の行政權を繼承してゐる。

行政區劃は以前後貝加爾、黒龍、沿海、勸察加の四縣の下に郡ウニョウ村ウチノロスト團を置いてゐたのを、一九二六年一月より管區ウチノロスト地區と改め、極東を總稱して「極東地方」と呼ぶやうになつた。

管區、地區の區分は次の如くである。

▼ 極 東 地 方

管 區 名	政治中心地	地區數
浦 湖	浦 湖	一四
ハバロフスク	哈 府	五
ニコラエフスク	尼 港	六
アムール	尼 市	一
ゼヤ・アルダン	ル フ ロ オ	四
知 多	知 多	一四
スレテンスク	スレテンスク	八
カムチャツカ	ベトロバウロフスク	九
サハリン	亞 港	四

この區劃改正は、行政統治機關を一般人民殊に農民に接近せしめんとするにある共產黨の所謂「勞農の結合」を主眼として行はれ、従つて新區劃の特徴は先づ従來の村團を地區に

擴張し、今迄郡の有つてゐた權利義務を與へて郡を廢止した點、次に従來の縣行政機關を一層農村に近づかしむるため縣を縮少して管區にした點、管區と中央政府の間に中間機關として地方又は洲を定めた點である。極東の九管區は南北二部に大別することが出来る。即ちニコラエフスク、ゼヤ、カムチャツカ、サハリンの四管區より成る北部と、浦潮哈府アムール、スレテンスク、知多の五管區より成る南部とである。これを比較して見ると

面 積	人 口	世 帯 數	耕 地 面	牧 草 地
北——一八七萬九千平方露里	十萬四千	一萬三千五百	二萬二千三百 ^{ガク}	二萬千五百 ^{ガク}
南——七〇萬六千七百平方露里	百五十二萬	廿萬二千三百	百廿四萬九千 ^{ガク}	四十九萬 ^{ガク}

左に各管區の特質を示して見よう。

浦潮管區——人口最も稠密、氣候は比較的溫暖、居住産業に適し、交通も便利で浦潮の如き主要港あり發展の素地が充分にある。漁業、海産業いづれも將來あり、蘇城の石炭、チチュへの銀鉛礦も價値を認められてゐるが、オリガ灣附近の鑛業も大いに有望である。

米作は殊に注目に價する。

哈府管區——主な産業は林業で、現在海岸烏鐵沿線に經營されてゐる。將來敷設される哈府——サウエート灣鐵道沿線も好望である。之に加ふるにキジ湖水路完成の曉には一躍して重要な木材輸出港になるであらう。

尼港管區——同管區で最も盛なのは漁業で、將來全極東産業に於ける隨一のものとなるだらう。狩獵、採金、林業も大いに發展の見込がある。

アムール管區——こゝでは農業が首位を占めてゐる。ゼヤ・フレヤ兩河の低地は極東農業の中心地で土質も良好であるがあまり開拓されてゐない。北部は農業より採金業の方が盛である。

ゼヤ・アルダン管區——採金業全盛の管區で、牧畜商業等は一切採金業の消長に關係を有つてゐる。

スレテンスク管區と知多管區——これは舊後貝加爾縣を兩分して東をスレテンスク、西

を知多管區としたものである。兩管區共氣候寒冷で農業は望みがない。牧畜は盛である。林産、鑛産共に豊富らしいがまだ着手するには至らない。

勘察加管區——地理的には他の管區と遠く離れてゐるが、經濟的には矢張り極東と縁が深い。産業は漁業と毛皮で、鑛業も多少有望である。

薩哈連管區——石油、石炭の鑛業専門で、日本が利権を得てからの活躍が目ましい。

二、民 情

一般國民、殊に農民は、共產主義が一つの理想に過ぎないで現實のものでないといふことを體得したので、宣傳で糊塗された現政權を次第に離れむとする傾向にある。一九二三年末一九二四年初頭に於けるスタリツク、シャプリン等各地に勃發した農民の反政府運動以來、此種事件のなくならぬ事實は最も雄辯にその實狀を裏書するものである。勿論政府は極力その鎮壓に努めたので、其後はトロイコヅツク等の反亂を除けば時々農村に勞農官吏の暗殺位があるに過ぎぬ。しかし直ちに之を以て政情の安定を語るのは早計で、寧ろ農

民は光明なき生活に呻吟しつゝ次第に悪化しつゝあると謂へる。最近、反政府團體たる全露農民黨のヤチエイカが極東にも組織せられ、加入者は約四萬二千人に達してゐる。彼等は互に連絡を保ち且つ相當の武器をも密藏して機を見てゐる。一方政權も農民を度外視しては施政不可能なるに氣づき、農村に廣汎なる權利を與へ、極度の讓歩を示す態度を執るやうになつた。

三、極東移民問題

(イ) 移民實施の原因

極東への移民はサウエート中央政府が一九一五年度から實施してゐる最も著名な事實である。政府が急にこの帝政ロシア時代の移民政策を踏襲するに至つた原因は

第一、歐露に於ける農民失業者の激増を調節し、貧農の不滿から起る政治的低氣壓を幾分緩和するためである。一九一二年實施の新經濟政策は農民に對する共產黨の最初の讓歩であるが、爾來農村經濟の復興に伴ひ本來の方向たる資本主義的傾向を増進し、又一方農

民の階級的分裂の形象を生じてきた。然るに共產黨は依然として戰時共產主義的階級闘争政策を持し、擡頭せる富豪中農に大なる壓迫を加へて被傭労働者使用、土地賃貸使用を禁じたので益々階級的分裂を助長し、失業者が激増した。そこで無数の失業者軍は就職のため農村から都へ次第に侵入し、さなきだに工業不振のため増加しつゝある都市失業者と相俟つて、サウエート聯邦にとつて極めて危険なる低氣壓を醸成したのである。是に於て政府は一九二三年、従來の對農村政策轉換の餘儀なきに至ると共に失業に對する應急策を講ずる必要に迫られ、雇傭、土地賃貸の許可、除隊兵の失業救済、農民扶助會の組織等を實施し、極東への移民を斷行するに至つた。

第二、極東を黄色人種の壓迫より防衛し、専ら自國の發展を期するためで、所謂『赤色帝國主義』の一面が茲に見られる。

要するに兩原因とも帝政時代のロシアの移民の動機と極めて彷彿たるものがあるのは極めて興味ある現象と謂はねばならぬ。

(ロ) 移民實施の現況

サウエート政府は一九二五年度に法令を發し、西伯利諸縣に五萬人、極東に三萬人の移民を實施して移民に種々の特典を與へた。尤もその時は準備が整はなかつたので充分な成績を見なかつたが、其後國家計畫部に植民會議を組織して研究し一九二六年から向ふ十年間に百萬人の農民を極東に移民する計畫を樹てた。かくして農務人民委員會は一九二六年度に移民經費として百二萬六千留を支出、翌一九二七年度には三百二十五萬留を支出してゐる。

移民への資金貸付額も最初は一家族につき二百留だつたが、其後三百留に増加、近く四百留に増額すると云ふ。北樺太への移民には殊に留意し、異常の特典を與へて該地方の移民を速やかに完成せしめんとしてゐる。例へば移住當初十年乃至十五年間農業税、營業税を免除し、家族の荷物農具運送と旅費を無料とし又馬(二頭迄)牛(二頭迄)其他の家畜(五頭迄)の運賃を無料とする外に、或程度迄森林の無料伐採の權を附與してゐる。兵役の義務を全然免除してゐる點も注意すべきことであらう。

(ハ) 移民實施の難關

但し極東移民には大なる難問題が一つある。即ち極東自體に於ける失業問題で、一九二五年以降各地方の失業者増加し、尼港の如き昨年六月漁業目的のため移つてきた失業者が四千人も殺倒し、當局も狼狽して尼港への失業者移動禁止令を各地に發した程である。其他各都市にも失業者が増してゐるので、この上更に多數の失業農民を移植するといふには充分な用意と計畫がなければならぬ。徒らに無秩序な移民を繰返すのは事態を更に悪化せしむるもので、現に移民排斥の聲が一部に起つてゐる位である。しかも歐露よりの移民が此等に關係なく行はれてゐるのを見れば、極東移民そのものよりも歐露の失業農民を東方に排出することのみが政府の考慮に入れられてあるといふ一面が觀察される。別言すれば歐露の事態悪化の安全辨が即ち極東移民となつて現はれてゐるのである。

極東の財政は帝政時代と比べて非常な差違がある。即ち帝政時代の極東は専ら軍事的見地より評價せられ、財政方面の獨立等に至つては深く考慮されてゐなかつたので、従つて當時の豫算の如き甚しい支出超過を示してゐる。例へば一九一三年度に於ける歳出一億六百萬留に對し、歳入は僅かに三千萬留に過ぎなかつた。然るに革命により中央との連絡杜絶し其の援助も期し難き狀況となつたので、極東は止むなく獨立の策を樹て銳意歳出入の均衡に努め、以て支出超過の傾向を矯正した。その結果一九二四—二五年度の如きは歳入超過をさへ示すに至つた。但し極東の財政は全く健全になつたのではなく、僅かに復興の緒についたに過ぎないのである。

左記は年度別の歳出入表である。

年 度	歳 入	歳 出
一九一三	三〇、〇〇〇、〇〇〇留	一〇六、一〇〇、〇〇〇留
一九二一—二二	一、八六四、〇〇〇	八、七五五、五九五

一九二二—二三	一五、〇五六、〇〇〇	二六、七八八、〇〇〇
一九二三—二四	二三、四九〇、〇〇〇	二二、六九八、〇〇〇
一九二四—二五	二四、三八二、〇〇〇	二二、一六四、〇〇〇
一九二五—二六	二七、五八七、〇〇〇	二九、三〇〇、〇〇〇

第三章 貿易

一、極東の密輸入

サウエート政府は外國貿易を國營とし、従つて極東に於ても自由貿易を禁じ、以て國內工業の發展を助成し外國品の流入を防止せんと努めてきた。しかも外國品は密輸入によつて滔々として侵入し、極東の國家經濟に莫大な損害を與へつゝ今日に及んでゐる。その原因は極東が歐露の中央工業地を離ること數千露里の邊疆にあり、歐露から供給される工業品が甚しく高價であること、加ふるに歐露工業は漸く復興に向つたばかりで品質も外國品に比し著しく劣つてゐるからである。かくして一九二三—二四年度には、極東の正規輸入

額約一千萬留に對し發見された密輸入品は約百二十五萬留に達したが、もし發見されぬ分を合せると千五百萬乃至四千萬留の巨額に達するだらうと極東税關當局は發表してゐる。また最近極東經濟會議の調査に依れば、極東に侵入する密輸入は一ヶ年に千五百萬留を超え、年々増加の傾向にあるといふ。

密輸入品の重なるものは左の如くである。

織物類	密輸入總額に對する比率二六%
絹靴下其他	同 一三%
煙草類	同 一六%
酒類	同 一三%
小間物類	同 一〇%
褌衣及メリヤス	同 七%
茶	同 三%

皮革類 同 一%

勿論サウエイト政府は極力此等の對策に腐心してゐるのであるが、何分極東工業は急に發達しさうにもない。結局外國貿易國家獨占、保護關稅政策を維持する間は密輸入を防止し得ない状態である。

また一方より觀察すれば、この密輸入こそ資本主義國とサウエイト聯邦との自然的經濟戰の一面を最も如實に示すもので、之に對し當局が將來いかなる態度を執るに至るべきかは經濟方面よりは頗る興味ある問題であらう。

二、對外貿易額

最近極東に於ける對外貿易額は次の如くである。

年 度	輸 入	輸 出
一九二三—二四	九百萬留	千八百九十萬留
一九二四—二五	千二百萬留	二千三百萬留

一九二五——二六 千九百萬留 二千二百萬留
 三、日蘇貿易

歐洲大戰前の日露貿易なるものは極めて微々たるもので、輸出入とも年額五百萬留乃至六百萬留に過ぎなかつた。大戰と共にロシアの外國貿易は大部分太平洋岸の諸港殊に浦潮を經由して行はるゝに至つたので、日露貿易は異常の活氣を呈し、ロシアは日本より一九一四年に千萬圓、翌一五年には七千八百萬圓、一六年には一億千七百萬圓を輸入するといふ好況であつた。然るにロシア革命の勃發と共に形勢再び逆轉し、一九一七年には七千四百萬圓、一九二〇年には僅かに二千三百萬圓、更に翌二一年には千四百萬圓に減ずるといふ悲境に陥つた。

其後サウエートの國內戦も平定し、復興の氣運に向つたので改めて日本との通商を開始するに至つたのであるが、何分サウエート聯邦は貿易の國營を主義としてゐるため、不便が尠くない。加ふるに獨逸でも對露貿易に熱中し、極東にもその優秀なる貨物を侵入せしめ

てきたので日蘇貿易も望ましい展開を見ない狀況にある。その總額は左の如くである。

年 度	輸出(單位千留)	輸入(單位千留)
大正十三年	一、三七三二	一九一二
同 十四年	一、二五七九	一二一五
同 十五年	一、四〇一〇	一四三五

貿易の種類を謂へば、輸出するのは第一に木材、次に石炭、燕麥、魚類の順序で、輸入するのは綿布類主位を占め、農具、砂糖、雜貨が之に次いでゐる。

要するに兩國の地理的關係、又サウエート聯邦が資源に富みながら加工品に缺乏し日本が丁度その反對である狀況は將來の貿易發展を豫想せしめずには措かない。只惜い哉、國情の徹底的相違とロシアの貿易國營輸入防遏政策はこれに一抹の暗影を投げかけてゐる。

四、極東の貿易機關

ダリゴストルグ(極東國營商業局)は目下運轉資金一百万留を有し、日本支那蒙古等の各

地に支部を設けて毛皮穀物の輸出等に活動してゐる。ダリバンク、極東銀行は最近對蒙貿易に主力を注いでゐるが、その主要な事業は蒙古牛の輸入、麥粉の輸出等である。

▲炭礦に六時間労働制實施?

六月下旬、全露各經濟及労働課長會議で一當局は

「七時間労働制採用後、就中紡績工業に於ける成績は極めて良好で、七時間労働が合理的であることを首肯せしめた」

と報告したが、鐵山労働者同盟の中央委員會は、坑内作業労働者の六時間制度實施に關する緊急會議を召集し、今日までの狀況に鑑みて先づ二鐵區だけを即時六時間制度に改める旨を決議した。猶他の炭礦全部に亘り、原價を引上げることなくして六時間制に改め得る期限に關し、各々豫定表を作製したと。

第四章 産業

極東の産業は未だ獨立の域に達しない。しかし極東當局が相當の努力をしてゐることは事實で、一九二六年極東産業開發十年計畫案を作成して總經費十六億留を計上してゐる。これによると其内十二億は國庫より、四億は地方費より捻出する豫定であると云ふが、その實現如何は大なる疑問に屬する。經費の中大なるものを概算すれば運輸事業費四億千萬留、大工業費三億三千萬留、農事費三億萬留、住宅建築費二億千六百萬留、植民費土地區劃費一億六千萬留である。

一、林業

各産業別に述べて見よう。林業は極東に於て最も經濟的價值を有するのであるが、日本へ輸出する關係で浦潮哈府兩管區だけにあつて他は目下あまり有望ではない。スレテンスク

管區の林業の如きは東支鐵道の需要の一部を充たすに止まる。要するに此等の管區の大森林も徒らに自然的腐朽に委してゐる。しかし所謂舊沿海縣の林業は一九二六年度より好況を呈し、ダリレス（極東木材トラスト）の發表によれば木材輸出總額五百二十一萬留を超え、其數量は千百三十萬立方呎以上であつた。仕向國は日本、支那、其他の順序で、品目としては紅松最も多く、其他の丸太、白楊類小丸太、其他挽材用が之に次いでゐる。サウエートが木材に着目してゐることは、三百八十萬留を投じてデカストリイ鐵道建設に意見一致したことによつても窺はれよう。

いづれにせよ極東林業が今尙ほ不振の状況にあるのは日本市場の不況に基因してゐるのでサウエート當局も新市場の開拓を考へてゐるが到底近き將來に實現の見込はないのである。

二、漁業

極東に於ける海産業には邦人の活躍が目覺ましく、一九二三年の産額三千六百萬留の中

二千六百萬留は邦人の手に係るものである。極東漁區の如きも七七%までは邦人之を經營し、租借料は年額二百萬留に達してゐる。かくして極東に於ける露人の漁業は、至つて振はないにも拘らず極東洲豫算に於て大なる役割を演じ、従つて當局は斯業發展のために大いに努力した。其結果、幾多の大企業が組織されてゐるが資金不足其他の關係で大なる成績は擧つて居らぬ。

極東の主要なる漁業企業は國營企業オカロ（オホツク・カムチャツカ漁業會社、國營トラストたるゴスルイブロム（國家漁業局）、半國營のダリモンブロツクト極東海産物會社）の三つであるが、右はいづれも全露國民經濟會議の管轄下にある。

ダリモンブロツクトは創業以來三年を閲し黒龍江下流に有利なる漁區あり、又オカロの漁區を租借して一年二百五十萬留の漁獲高がある。

オカロは純然たる國營事業でオホツク・カムチャツカ方面に河漁區十二、海漁區五を有してゐる。

ゴスルイブフロムは主として餅、蟹の捕獲及び蟹罐詰業に従事。

三、採金業

採金業は極東の産業中首位を占め、戦前には一ヶ年二千布度の採金量あり、全露採金量の三分の二以上であつたが、革命時代には殆んど衰微し、一九二一年から漸く小規模の個人採金業が復活し始めたが、それでも一九二三―二四年度の採金量は僅かに五百五十布度に過ぎない。翌二四―二五年度には百五十布度を増加して七百布度の採金高があつたが、猶且一九一三年の採金高の僅か三六%であつた。採金手段も、戦前は主として筋肉労働を使用した大採金業者の経営になるもので、含金率の大なる砂土のみから採金したが、その地区も漸次稀少となり事業も縮小するに至つた。其結果小採金業者が増加し、所謂スタラ―テリ（自由採金労働者）が現出したが、其後再び大企業増加の傾向を示してきたのである。が今度は比較的に含金率の少い砂土から採金する必要上主として機械を使用するやうになつた。採金業に従事する機關としてはウラルソット、レンソット、エニセイソット、ダ

リソット等が組織されてゐる。

ダリソット（極東國營採金トラスト）は最近の組織に係り、大なる機械的採金業を經營するには至らぬ。猶有望なアルダン採金地が発見せられて以來、當局は同地との交通路開設の必要を感じ、ルフロオからレベチーノエまで二百露里、アルダン迄四百露里の道路改修に着手し、ルフロオ、アルダン間の飛行路の開設をも準備してゐると。

四、農業

農業も極東に於ける主要な生産業であるが、今日極東の農耕地は百八十萬デシヤチンで農業に適する土地の僅か九%に過ぎない。従つて帝政時代に於ても極東の農業は同地住民の需要を充たすに至らず、毎年八百萬乃至一千万布度の穀物を外國から輸入したものである。其後農業は益々不振で、一九二三年の如き穀物の不足額は千六百萬布度に上つた。最近は政府の努力で少し回復の傾向を示してきたが、しかも戦前の七〇%に達したばかりである。

主要な作物は小麦、裸麥、燕麥、藁麥で、大豆、米、稗玉麥、馬鈴薯、麻が之に次いでゐる。穀物收穫高も一九二四年度に二千四百四十萬布度、翌二五年度は二千百萬布度、更に二六年度には四千七百萬布度といふ風に激増の傾向にある。

極東の農業中、最も注目すべきは米作である。米作は一九一七年浦潮管區グロデコオに試作をしたのが最初で、其結果極めて良好、爾來十年間に異常の發達を遂げてゐる。稻作の盛に行はれる地方はグロデコオ、綏芬、凱興湖畔、哈府附近で、浦潮管區は最も水田に適してゐる。水田に従事してゐるのは主として朝鮮人であるが近來は露人も之に倣ふに至つた。沿海洲の小麥の收穫が思はしくないのと又一方米の販賣が容易なためである。

目下の計算によると水田に適する土地と認められる面積は約三十萬ヘクタールで、サウエート當局はその十年計畫米作案を作製し、灌溉作業費九百四十一萬八百五十留を計上してゐる。猶この水田擴張實現の曉即ち一九三六年度には輸出し得る米が千九十九萬七千二百布度となり、その価格は二千七百萬留に達するだらうと云ふ。

第五章 利 權

極東の利權はあまり多くはない。またその大部は日本に提供したものである。

(一) 石油利權 北樺太の油田で、規定地積の五割開發の利權を與へてある。ロシアは報酬として總算額の五分の一乃至一割五分を受取ることになつてゐる。期限は四十年乃至五十年、別に同東海岸一千平方露里の地積を五年乃至十年間試掘せしめ、確定せる場合は地積五割の開發の利權を附與してある。

(二) 石炭利權 北樺太西海岸及びドゥーエ地方炭田開發の利權を與へ、ロシアは報酬として總産額の五分乃至八分を毎年受取ることになつてゐる。期間はこれも四十年乃至五十年である。

(三) 漁業利權 カムチャツカ沿海の漁業權を與へるもので昨年十月假調印を見、本年五月本調印の運びになつた。

(四) 林業利權 浦哈兩管區の森林伐採權を與へるもので昨年十二月假調印を了した。

猶日本以外の外國に與へた利権は、英國アイコン・コーポレーション・リミテッド株式會社に與へたオホツクに於ける金鑛利権（大正十四年）、米國某會社に與へたブレンスキイに於ける金鑛利権がある。

第六章 交通

一、鐵道

幹線としては知多に管理局を有する後貝爾鐵道、哈府に管理局を有する烏蘇里鐵道であるが、支線には前者にプリスコワヤ―ネルチンスク線、クエンガ―スレテンスク線、後者にボチカレオーブラゴエシチエンスク線、ウゴリナヤ―カンガウス線がある。

軌條は主線が六五封度軌條、側線が四八封度軌條を用ゐてゐるが、五乃至十年前の製作に係るもの多く従つて損傷せるものが尠くない。橋梁もその大なるものは整備してゐるが小なるものは列車の最徐行を要するものがある。

運行回数は知多以東哈府迄一―二回、哈府―尼市間二―三回、尼市―蒲潮間十回である。

貨物輸送高は一九二五―二六年度に於て後貝加爾鐵道五千萬留、烏蘇里鐵道一億三千萬留であつた。

次にサウエート當局は一九二六年より向ふ十年を期して左の新鐵道を計畫してゐる。

(一)凱興湖畔鐵道 これはツ―リー―ロッグ驛より凱興湖畔に沿ふて走るもので、延長百五十七吉米、敷設費約八百四萬留である。

(二)キジ―デカストリ灣鐵道、材木運搬を目的とし、延長三十六吉米、敷設費約三百五十萬留。

(三)ブカチャンスキイ支線 後貝加爾鐵道パーシエンナヤ驛よりブカチャンに通ずる六十吉米の支線。經費三百六十萬留を要し、該地に新發見の石炭運搬が目的である。

(四)コンスタンチノフスキイ支線 烏鐵ゴレンカ驛よりコンスタンチノフスキイ炭鑛に至る支線で、延長二十吉米、經費百二十萬留。

(五)哈府サウエート灣鐵道 哈府より直接太平洋に東するもので、延長四百五十吉米、

經費六千七百五十六萬留、十年後には九十四萬噸の貨物を取扱ふ見込であると。
 (六)サガレン鐵道 北樺太東西兩海岸の連絡と石油石炭地帯の運輸開拓を目的とし、延長百七十吉米、敷設費二千六百萬留である。

二、港 灣

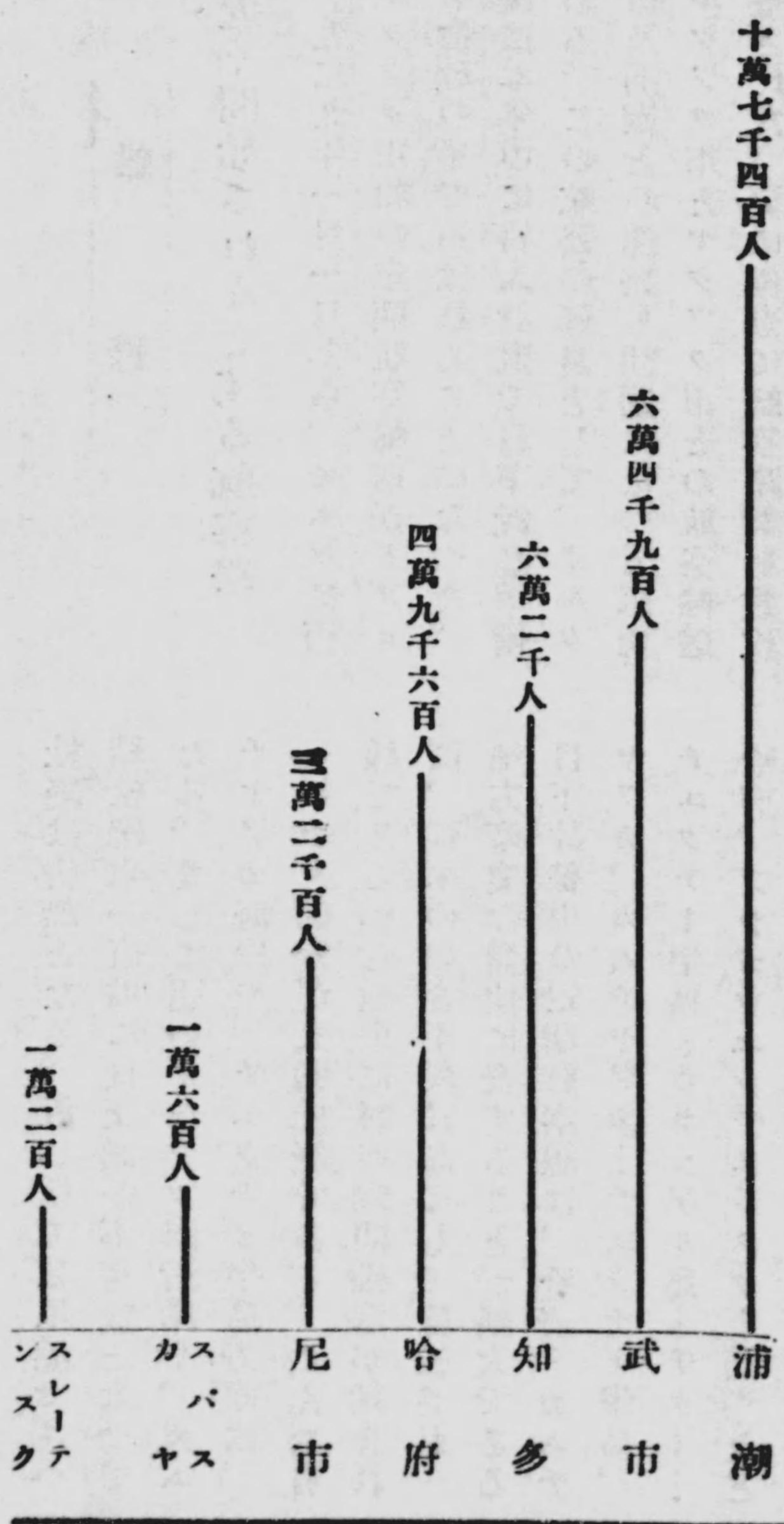
サウエート當局は左の如き十年計畫で港灣の完成を企てゝゐる。

- (イ)浦潮港 十年後には貨物の取扱高が現在の二倍になるといふ見込みで、先づ港灣の修築、引込線の施設、エレベーターの設備等を計畫し最初の五年間に千二百萬留を支出する筈である。
- (ロ)尼港 最初の五ヶ年間の改築費が百二十萬留の豫定。
- (ハ)デカストリ港 年額四十萬噸の貨物取扱を目標として百五十萬留を支出。
- (ニ)サウエート灣 五年後には一ヶ年八萬噸の貨物を取扱ふ見込みで築港。
- (ホ)亞港 サガレンの石油石炭事業の發達に伴ひ一ヶ年六、七十萬噸の貨物消化を豫想

し築港費六百二十六萬圓を投ずる。

(ハ)ベトロパウロウスク港 經費九十五萬。

極東露領主要都市人口表 (但シ一萬以上)



(完)

雜 錄

▲近く開始されんとする航空路

明一九二九年一月一日から、モスクワ市及イルクツク市間の定期航空輸送がドプロリョト會社の手で行はれることになつた。試運轉は本年中に行ふ計畫で目下鋭意準備中である。この航路の延長として、イルクツク市及浦潮との連絡も問題になつて來た又イルクツク市とヤクツク市との航空輸送も企畫された。更に極東に航空路網を敷設する形勢となつた。

元來、極東主要地の交通連絡は季候のため、一年間一定の期間は杜絶するのを原則としてゐたが、航空輸送が始まれば、この

杜絶は皆無となる。近い所では尼港でさへ結氷解氷の直前には交通が不可能となつてゐる。まして遠いオホツク海沿岸や、カムチャツカ海岸や、チユクチイ半島方面は、一年の大部分が交通杜絶である。こんな有様であるから極東に航空定期輸送が始まれば、從來の如き不便は忽にして除去され、地方産業の發達に資することが絶大である目下計畫中の定期航空線は、哈府：カムチヤツカ、カムチャツカ：チユクチイ半島、チユクチイ半島：ウランゲル島：チター：哈府、ブラゴウエシチエンスク：浦潮などである。最も必要なのはイルクツク浦潮及イルクツク：ヤクツクの二線で、これが出來れば他は支線的に順次に實現されるわけである。モスクワ：イルクツク：浦潮の

航空路が出來ると三晝夜で飛航できるから現在に比して約七〇%も時間が短縮することになる。これによつて現に約一ヶ月を要するイルクツク：ヤクツクの交通は二晝夜ですむことになる。結氷と積雪に交通の自由を阻害されてゐる極東の輸送はこれによつて新紀元を開くことになる。

▲露領極東地方住民の民族的考察

最近統計にあらはれた所を示すと次の如くである。

ロシア人	七九・二%
朝鮮人	八・九
支那人	三・八
土人	三・五

其 他 四・六

右のうち、ロシア人の中には大ロシア人とウクライナ人を含んでゐる。ロシア人以外の住民は大略三十餘種の民族から成り立つてゐる。また土人の中の主なる種族は次の如くである。

ツングス族	二六・三%
蒙古 族	一三・四
滿洲 族	一二・七
トルコ族	一・九

アジア古代族全部 四五・七

右のうち、アジア古代族と云ふのは、その祖先が嘗て西伯利及極東各地に住居してゐた數多の民族である。然し現今では他民族に壓迫されて、アジア大陸の北東端に押し込まれ、僅に生存してゐるのである。

ロシア人が、最初この方面に進出して来たのは約二百年の昔である。その當時はザバイアル地方や、オホツク附近、勸察加半島の一部などに主として集合してゐた。これから來住者は次第に増加して來たが、一八八〇年代には遂に黒龍江地方へ大舉して移住した。その後一九〇〇—一九一〇年代には植民が奨励された結果、更に多數の來住を見たのである。この植民は同じロシア人ではあるが、風俗習慣言語を異にした各地方から來住したものであるから、植民地で寄り合つて一種獨特なロシアを作り上げたのである。又この來住ロシア人と土着民との接觸によつて、ロシアの他の かに見ることの出來ぬ、風習や地方語を形成したのである。

サウエート政府はこの獨特の情態を研究して、これに適合するやうな産業的企畫の作成に従事してゐる。また土人の懐柔策にも全力をつくしてゐる。例へば土人部落を設けて青年子弟の教育を行ひ、優秀なものをモスクワへ留學させ、サウエート文化を土人の間に傳播させることに骨を折つてゐる。更に具體的の實例を挙げれば、北樺太の土民の懐柔の如きもそれである。嘗て我軍が駐在中には我軍の徳になづいて、その撤退とともに南樺太に來住するとまで云つてゐた土人の一團の如きも、今ではモスクワ歸りの若い者の命令のもとに、サウエートを謳歌するに至つてゐる。この若い男がモスクワへ留學する時など、尼港の代官とも云ふべきアフォンが自身出迎へて、身

るのである。

廻の世話までやいてゐるのを筆者は實見したのである。サウエート政府は土人中の文字のないものには將來ロシア語を教へて、これを彼等の國語としやうとしてゐる。土人の人望を得ることはサウエートの政策中重要なものである。前記土人のほかに、朝鮮人及支那人に對しても相當注意を拂つてゐる。朝鮮人は農業に、支那人は小工業に従事させるために、例の五ヶ年計畫に準じた施設を行ひつゝある。朝鮮人を農業に使ふと云ふことは、米作に従事せしめることである。將來この米作が盛になれば、我國で輸入することになるであらう。之を要するにサウエート政府は、國內に居住する異民族の懐柔に全力をつくし、これを産業的に役たてることを目的としてゐる。

謹告

ハルビン本社發行「露西亞通信」は全國各新聞社は勿論、銀行會社等の調査課、勞働課、國家の樞要なる各機關、各國大公使館、民間の熱心なる對露研究家等の愛讀を得て發行部數も非常に激増して参りましたので、今回通信網の擴充、資料の改善と相俟つて從來謄寫版刷であつたのを、極めて鮮明なるタイプライター刷にし内容、體裁共に萬遺憾なきを期しました。

茲に名實共に世界に冠たる専門的通信として誇り得ることになりましたので、廣く御購讀を希望する次第です。定價は一ヶ月貳拾圓です。

在歐白系露人の情況

一、在歐白系露人の數と其の分布

在歐露人の總數は約二百萬人に近いがその中白系に屬するものは約一百萬人であつて、各國別に於ける分布狀態及主要な黨派は左の如くである。

- ドイツ……………約二十六萬人
- フランス(アフリカ殖民地を含む)……………約三十五萬人
- ユーゴスラヴィヤ……………ブルガリヤ……………八萬乃至十萬人
- ポーランド……………五萬乃至六萬人
- ラトヴィヤ……………三萬乃至四萬人

二、在歐白系團體の狀況

在歐白系團體の所在地は前述の通りであるが、之を白黨及亡命白軍に區分する。前者は政治又は主義上の團體であり、後者は白系軍人中の亡命者であり各種白黨に在籍し其一部分をなすものである。

- チエツクスロバツク……………約三萬人
 - ルーマニヤ……………約五千人
 - ギリシヤ……………約五千人
 - 瑞典、瑞西、丁抹、土耳其、バルカン諸島、西班牙及澳太利……………三萬乃至三萬五千人
- 右の中約三十萬人は純然たる白黨であつて白軍殘黨は更に其の中の約五、六萬に過ぎない。

在歐白黨の狀況

帝制時代に存在した舊政黨の多くは解體し、目下在歐白黨中最有力なるものは、社會革命黨及社會民主黨の系統であるが此外帝制派、共和派等の各派があり、全般として統一せる團結をして居ないが、民族的には漸次近接する傾向がある、左に重なる黨派に就て記すれば。

一「ケーレンスキー」派

社會革命黨の一派で白黨中最有力なるもの。巴里に根據地を有しサウエート聯邦内に活動の手を伸しチエツク國民社會黨等と連絡してゐる。

二「社會民主黨」系統

アブラモウイツチ派ドン派等に分れサウエート聯邦現政府には反對の地位に在るがブル勢力に對しては飽迄之を敵視してゐる。且つ黨員は舊社會革命黨中の保守者を主とし新人は少數で伯林を根據地としてゐる。

三「共和民主同盟」

ミリュコフを首領とする一派で主として舊立憲民主黨から成り之に右翼社會革命黨員、國民社會黨員、社會民主黨員の一部を加へ且つ國際マツソンと提携してゐる、巴里を本據とし、サウエート聯邦内農民に對し反政府運動を行ひ、比較的潤澤なる資金を擁してゐる。

四「ニコライ」派

ニコライ大公を盟主とし巴里に本據を置き反動的傾向著しく、黨員は國民共和主義者から極右帝制主義者に至る迄の各種の者を抱含し、武的威力としてウランゲリ軍の將校多數を抱擁する、後述するガリボリ派の大部分は皆之に屬してゐる。

五「エフラジ」派

トウルベツキー公、ペー・サウエツキー、ペー・スウチンスキー等を領袖としサウエー

ト聯邦内に活動し主として官憲中の不平分子に對し着目してゐる。

六『セリゲノフ』及『ブルエフ』一派

黨員は少數であるが、組織優秀で特にサウエート聯邦内の情報蒐集を行つて居る。

在歐白黨は若干の機關紙を持つて居るが、其主なるものは次の如くである。

【イ】 フランス發行

- A 日刊「ドウニー紙」 巴里發行
ケレンスキー派(エスエル)の機關紙であつたが經濟上及讀者少數の爲廢刊した。
- B 日刊「ボスレヅナヤ、ノーウオスチ」 巴里發行。
臨時政府の外務大臣であつたミリユコフの主宰する所で、民主統一同盟の機關紙として認められ國際猶太人團體の援助を受け、國際聯盟に接近し同方面より新聞發行の資金を受けてゐる。
- C 日刊「ウメスロジデーニヤ」紙 巴里發行
ニコライ ニコライウキチ大公の機關紙で露國石油業者クカソフの後援に依り新聞を發行し

てゐる。

- D 週刊「ボリバザ ロシイ」 巴里發行
排過激派同盟(資金はニコライ ニコライウキチ大公一派の機關より出る)發行唯一の宣傳雜誌で密かにサウエート聯邦内に散布されてゐるもの。
- E 週刊「イリュストローワンナヤ ロシヤ」誌 巴里發行
無黨派辯護士ストルウエの主宰する輸入雜誌で、ソウエート聯邦の現状紹介に勉め、資金は前記クカソフから出て居る。

【ロ】 ドイツ發行

- A 日刊「ルーリ」紙 伯林發行
立憲民主黨の機關紙で右黨の中央を之に合し現に新聞發行を繼續してゐる。
- B 週刊「リギチミスト」紙 伯林發行
キリール大公の機關紙であるが、勢力微弱にして一ヶ月一二回を發刊するに過ぎない。
- C 週刊「ソシアリスチイチェスキー ウエストニツク」 伯林發行
エス、デーのメニシエウイクの機關紙でチエツク同黨から支持されてゐる。

【ハ】 ポーランド發行

- A 日刊「ザ スウオポードウ」紙 ワルシャワ発行
民主黨色彩を有するものとして知られてゐたが現今では無黨派で波蘭内務省の援助を受け同
處の御用新聞である。
- B 日刊「ウトロ」紙（又はウイリンスコエ ウトロとも稱す）ウイリナ発行
同紙の色彩は概ね前記Aと同じである。
- C 日刊「リボフ」紙 リボフ發行大露西亞語及ウクライナ語を以て書かれ、大露西亞統一復興
を主義としてゐる。

【ニ】 ユーゴスラブ發行

- A 日刊「ノウオエ ウレミヤ」紙 ヘルグラード發行
帝政時代のノウオエ ウレミヤ紙の主筆スオリンの主宰するもので、最右黨に屬してユー
ゴスラブの援助を受けてゐる。

【ホ】 「バルチック」沿海諸邦發行

- A 日刊「セゴドニア」紙（リガ發行在ラトビヤ）
同地在留露國民の資金を以て發行され民主黨的色彩を有してゐる。

【ヘ】 「チエツコ スロバツク」發行

- A 週刊「ウオリ ロシイ」誌 フラトク發行
エス・エルの機關紙

在歐亡命白軍の情況

革命後各地に簇立した白軍は其企圖何れも失敗に歸し、殘員は難を避けて諸國に亡命し
て居るが、其一部が集團して屯田生活を營んで居る者を除き、大部分は四散して他の職を
求めてゐる。然るに白黨共通の經濟的壓迫は依然として彼等を襲ひ、其上狹量利已の通弊
に依て蝸牛角上の争を絶たず、此が爲目下の白軍の武力的價值は頗る微弱であるが、今其
重なるものを擧ぐれば左の如くである。

一 「ガリポリ」派同盟

此派はウランゲリ軍没落後カリポリ半島に亡命した一派で、現に主としてバルカン地方及佛國に根據を有つて居る。

總員約三萬人、白黨團體中最反動的傾向を有し其バルカン地方に在るものは集團して屯田制度を行ひ黨員は主として、舊露軍將校から成つてゐる。

此中にはニコライ ニコライウネチ大公を推戴せんとする者とキリール ウラジミル大公を頭首と仰ぐ者とがあつたが、此兩者は漸次接近して、將來白軍編成に當つては其骨幹となり得る有力なる一團體である。

二「コザーク」

主としてドン及テレクコザークから成る。

總員約一萬五千主としてブルガリヤ、チエツク、スロバツク等に散在屯田してゐる。一般に舊王朝に對しては好感を持つて居ない、其チエツク スロバツク地方に在る者は共和思

想を持つて居る、又全コザークの統一も未だ望むことも出來ず、各自各派に其アタマン(首領)を中心として結合したり又は他派に投じたりしてゐる。

三「ペトリユーラ」派

ペトリユーラの殘黨でウクライナの獨立を理想とし主として波蘭に在つて總員約千名、帝制時代の陸相サウイツキー等も之に關係し團結を共にしてゐる。

四 其他の諸派

此外グルージン ウクライナ白黨等があるが、武力的威力は極めて微弱で各自民族の獨立を企圖してゐる。

各國に於ける亡命白軍の團體及其人員數は次の如くである。

フランス及ベルギー 二萬人……カリポリ派

ポーランド 二千人……ペトリユーラ派(約千人)

サウインコフ派、其他

ブルカリヤ 二萬人…
 カリポリ派 (八千)
 ドンコザツク (八千)
 テレグコザツク (千) 其他若干

ルーマニヤ 千人…
 カリポリ派
 コザツク等

チエツクスロバツク 五千人…
 コザツク (四千)
 其他白黨 (若干)

ユーゴスラヴィヤ 四千人…
 カリポリ派

三 在歐白系露人の思想

在歐白系露人は政治的には帝制主義、共和主義、社會民主主義等に分れてゐるが、帝制主義者であつても、必ずしも帝制を希望して居るものでは無く一般他の共和國程度の國體の現出に満足して居る様である。

然るに最近サウエート聯邦の政權の基礎が確立したるに反し白黨は之に對立して之を凌駕し得ない事と且つ他面經濟的窮乏とに依て士氣沮喪して其實權は小壯者の手に歸して居る。

又一般に利己心強く抱擁力に乏しい爲白黨の大同團結は未だ之を望み得ないのであるが、民族的には稍結合する緒に着いてゐる。然し乍ら是等の民族間には共通の利害がなく、例へば——大露西亞人は露國の復興を夢み、其他の小民族は何れも民族自立を理想としてゐる——従つて統一ある運動に出る事は前途尙遠しと言はねばならぬ。

又彼等は一般に依頼心強く、諸外國の援助をのみ期待して獨力を以て事を擧ぐるの氣力に乏しいのである、然し數年間外國に流浪して居る彼等の胸中に流れてゐる反感積怨の情は現政府に對する利害の不一致と相俟て、益々深く、サウエート聯邦政府の懐柔策に對しては、同政府の屢々の不誠意に懲りて今や之を顧るものは無い、故に彼等の中膝をサ聯邦政府に屈する者は極めて罕で、却て反動的な世界思潮に乗つて少くとも右傾的傾向を取つて

居る如く思はれてゐる。

四、在歐白系露人の經濟狀態

在歐白系露人の經濟狀態は一般に窮乏甚だしく哀れむべき状況にあつて、筋肉労働に従事して居るものも少くない、其白軍亡命者に就て調査した處に依ると左の通りである。

ブルガリヤベルニツク嶺山約六千人（鑛夫）

ユーゴスラヴィヤ約二萬千人（道路作業夫）

ポーランド

林業労働者多數

右の外最近加奈陀に約三千人の労働者（木挽等）移住し、又巴里、伯林等ではコツク給仕、自動車運轉手等に從事して居る者も少くない。素より亡命露人の中には一部富有な者もあつて（チエツク其他に於て好遇を受けて居る學者、技術家等も多數あるが）其多くは安逸を求めて姑息因循、自己の安全を計り他を顧るに至らないで、密かに外國政府等から物質的援助を受けて居る者もある、然し之等は極く少數に過ぎないのである、従つてサ

ウエート聯邦内の政情が危機に至つた場合には白黨の暗中飛躍が行はれる事もあるが、經濟上の問題に依て相反目に終るのが常である。

要するに經濟的逼迫は白黨不振の一大原因であると同時に、其不振に依り益々經濟上の窮乏を來し、兩者の因果關係は併進して止む所を知らぬと言ふ有様である。

▼反革命事件の祟りでドン炭坑の技師缺乏

ドン炭坑地方の調査を終へてモスクワに歸來せる職業組合委員の報告に依れば目下同炭坑地方は反革命事件以來技師が非常に不足し、獨逸人技師招聘に關しオデツチエ氏は炭坑當局より依頼を受けたが之は炭坑に於ける外人技師の御目附役として辣腕を振つた結果同氏を懐柔する意味で人選方を一任したのだと言はれてゐる。

西伯利自治の傳統的希望

今は西伯利獨立緩衝國を欲求

西伯利人の自治欲求は今に始まつたことではない。十六世紀の末エルマークが西伯利を征服し、西伯利人から朝貢せしめて本國の國庫收入を計り、後、次第に植民地として、一切萬事歐露同様の方式をもつて歴史、事情の異なる西伯利に、しかも官憲萬能の態度で臨んだ。由來自由を愛する西伯利在來の住民はこれに對しまことに不平があつた。それに古くは一八二五年中露の十二月黨の亂後、時の政府がその亂徒を西伯利に追放した時からはじまつて、十九世紀の中期かれこれ五萬人の波蘭の反亂者を西伯利各地に流謫し、爾來歐露の政治犯人を無數に西伯利に追放した。これ等の流刑囚は、づれも智識階級であり、自由を殊に愛好するものである。これ等が在來住民と同氣相引き相求めて西伯利自治の思潮が鬱然として起り、一八七〇年ごろから彼の有名なホ

ターニンのごとき、西伯利出身の長老が正義の觀念から、政治的主張として西伯利自治を叫びはじめ、西伯利に文化的にも經濟的にも自治を與へて自治聯邦を創設せしめよ。これに因つてはじめて西伯利の住民の繁榮地方富源の開拓も出来るのだ、と聲々と西伯利の分離を説きたてて以來、この風潮はいよゝゝ全般的のものとなつた。さりながら當時のこの欲求は歐露から全然分離、獨立しやうといふものではなかつた。西伯利全體の安定と發達のために、文化的、經濟的に西伯利なる一分立聯邦を創設して、一定の獨特の政治上の形式を備へやうとするのであつて、決して革命運動でも、また暴力的叛逆でもなく、完全なる個人の自由尊重と、民主主義要望の精神から出發したものであつた。で、中央政府をして西伯利を尊重せしめ、その自治要求を貫徹するためには、すべての智識階級が熱心に主張したと同時に、所在の富豪も財を投じて自治運動の闘士の養成に努めたものである。

しかるに好機到来、大革命の波瀾に乗じ、一九一七年十一月トムスクに全西伯利州縣代表者會議を開き、時の過激派政權を否定し、州議會を組織し、滿場一致ボターニン長老を名譽議長に推し、ここに宿年の希望を達せんとしたが、西伯利政府の運命も滿一ヶ年の薄命で倒れた。その後時々自治運動は所在に擡頭したが、サウエート政權の勢力に壓倒されて、いまだ全般的、表面的運動とはなり得ず、今日に至つてゐる。さりながら西伯利人の自治要望は右のごとく、その淵源するところ遠く、且つ深刻である。そしてその要望も以前は西伯利聯邦を建設して、自由の露西亞を與へよと叫んでゐたのが、近年では「西伯利を獨立せしめよ、しかし露西亞を救済せしめよ」と堂々宣言して、自治要求から、完全獨立要求と進んで來た。サウエート政權がこの思潮を輕視する筈はない。南露ウクライナの獨立運動とともに甚だもつて厄介なものである。ボリシエウヰキによつて強く目醒まれた民族意識は、いまやボリシエウヰキの荷厄介にならうとして來た。西伯利や、ウクライナの外になほ民族自治の徹底を期す

る民族がサウエート聯邦内にある。

現下の西伯利獨立運動が近き將來に一層積極的に勃發しうるか、どうかは無論判らな

し。

しかしながら此の問題は我が國民の決して無關心でありうることでない。ここに西伯利獨立運動の古くからの大先達エム・ペー・ゴロワチエフ博士の談を紹介するのもその意味に於てである。博士の談を掲げた哈爾濱の右黨派一露紙はこの談話に「サウエート露西亞では各地方とも莫斯科から分立して、民族的色彩の濃厚な、固有風俗を尊重し、維持しうる國家を創造せねばならぬといふ輿論が高まつてゐるが、目下哈爾濱に滞在中のゴルワチエフ博士のごとき熱心な西伯利獨立運動の主張者でまたその運動の中心人物である。博士は西伯利の自治的緩衝國家を創設する問題につき大要左の如く語つたが、博士の意見は西伯利人士の代表的意見であり、至極穩健な説であるから特にこれを紹介する」と前書きをつけた。

因にいふ、此の問題に關しての西伯利といふのは西は烏拉爾山から東は勘察加までを含むのである。

△西伯利は自治を要す 自分の手許に集まつてゐる情報によると、現今西伯利一般住民の抱いてゐる考へは、一九一八年頃と同様、否なもつとそれよりも一層堅實味が加はつてきた。これは西伯利が文字通りに征服されて、共産中央集権主義に祟られた反動が主な原因となつてゐること勿論である。而して現今の悲境から脱れるのは、都會といはず、村落といはず。すべて西伯利には廣い意味の自治制度を實現するの外ない、と切實に感じてゐる。そも／＼中央集権的政治が西伯利住民に適しないばかりか、莫斯科がこの制度を執るに至つた目的そのものが、一般西伯利住民の希望に合致せぬので、官憲は非常手段をとつてもあくまで豫期の目的を達しやうと焦り、その結果自然不祥事件が伴ふことになつたのである。

西伯利の人士は將來共産政治が行詰つて、極東に大變動が起るべく、その秋こそ西伯利

人士が檜舞臺に活躍する時だと、機會の到來を鶴首渴望してゐる。つまり西伯利を獨立した緩衝國にしやうとの念に燃えてゐるのである。西伯利は今、未曾有の經濟的恐慌に悩まされてゐる。それといふのも共産政治の然らしむるところだといふので、その反感は極度である。一ヶ月五斤のパン切符制度が、昔し露西亞の穀倉と稱せられた西伯利の、オムスク、トムスク、ノウオシピリスク、バルナウル、クラスノヤルスクの諸市に實施されてゐるがごときことは、何人といへども嘗て夢想だも出来なかつたことである。

かやうな形勢であるから一八二二年以來、ボリシエウイキは西伯利住民の反抗的氣勢を重大視し、故ジノウ井エフのごときも第三インターの議長時代にすでに、全露共産黨大會の席上、西伯利の形勢に注意せよと叫び、トロツキもまた逐放される間際まで同様のことを説いてゐた。また現に今年西伯利の首府ノウオシピリスク市に開かれた西伯利共産黨の特別會合でも「西伯利の獨立運動が漸く反革命運動化せんとする氣配になつた」ことを決議して、これを莫斯科に注進に及んだほどである。もつともこれなどは餘り大袈裟であ

つたが、しかし西伯利人士の衷情は實際これに相違ないのである。

△對外人關係 西伯利の獨立運動は西伯利の恢復のみならず、經濟力の發達を期するものであるから、その目的を達成するためには、どうしても外國資本の援助を藉らねばならない。また外國資本にしても西伯利で投資しうる有望な事業は多々あつて、投資すればするほど利益はそれに比例する。もつともこれには西伯利に獨立國を創造し、私有財産權を認め、製品の自由處分を許し、一般民主主義に基き、何等人種的差別階級的差別、觀念を設けないところの國家の樹立といふことを前提としての投資でなければならぬ。

我等はかくすれば、外國人側からも西伯利獨立問題解決の便宜を得、將來外國人との關係も圓滿に行くだらうと確信する。また政治的關係から見ても、西伯利を緩衝國とすることは、極東の政情安定、殊に日本や支那のやうにロシアの赤化宣傳に脅されてゐる國々にとつても歓迎されることと信ずる。

すなはち西伯利問題は太平洋問題の一として取扱はるべきものであるが、しからは歐米

諸國が西伯利問題に對し如何なる態度に出るかといへば、一九一九年コルチャク政府承認の際、列強は第五の條件中に

「ロシア領域内に於ける國家創設問題は、先づ國內の各政黨との協議を経たる後、さらに國際的協議を経ることを必要なりと認む」

と記載された、この見解が今日でも意義を失はない以上、まづ我等が國內の政治團體と協定して完全なる政府を樹立したる後、外國の承認を求むればいゝ筈である。

△ウクライナ獨立運動との連絡 目下外字紙によつて傳へられるやうに、ウクライナ獨立運動が熾烈となり、サウエート官邊もその鎮壓に手古摺つてゐるといふ情報は、我等の手許にも入つてゐる。このウクライナ獨立運動も、西伯利問題解決運動も、その根本の精神は同じものであるから、ウクライナ獨立運動の火の手が上がつたことは、我等のまことに喜ばしいところで、西伯利人士も、ウクライナ思想團體とは一部分ではあるが共通してゐるのである。

三、財政、經濟並產業

THE HISTORY OF THE UNITED STATES OF AMERICA
BY CHARLES A. BEAMAN
PUBLISHED BY THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS
CHICAGO, ILLINOIS
1912

THE HISTORY OF THE UNITED STATES OF AMERICA
BY CHARLES A. BEAMAN
PUBLISHED BY THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS
CHICAGO, ILLINOIS
1912

THE HISTORY OF THE UNITED STATES OF AMERICA
BY CHARLES A. BEAMAN
PUBLISHED BY THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS
CHICAGO, ILLINOIS
1912

サウエート露西亞 財政十年間の回顧

左記はエヌ・フリユハーノフ氏の論文の翻譯である。革命後十年のサウエート財政を

一瞥するには好箇の材料であらう。

我がサウエート革命の道、それは一國の文化及び生産力の威大なる興隆のため、又凡ての労働者即ち全國民の福利と文化の興隆のための奮闘の道、約言すれば個人と個人の起業を排して其の本位を「團體」に置くの道である。

この道は、吾人にとり意想外に困難なる状態即ち敵の包圍の内に、且つサウエート聯邦に「死の首枷」を掛けんとする機會を狙ふ掠奪者の包圍の内に通過せねばならなかつた。サウエート聯邦は自己の力、自己の資力を以て、他の何者の援助をも受くることなく、敵

の包圍の内に自己の存在を確立し、且つその使命とする社會主義建設の事業を解決したのである。

わが幾百萬の労働者の「團體」はこの建設事業に貢献すべく参加した。一切の利害は先づこの「團體」に集中せられ、サウエートの凡ての機關即ち政治産業文化の諸機關は之によつて「勢力」づけられ又指導せられる。

余は種々の難問を設けて此の限りある一文中に羅列するを避け、サウエート建設事業既往十年間の最も著明なる成果の一たる財政に關し、最も重要な部分を本文に於て記述しよう。

サウエート共和國存在の第一年は社會主義建設創造の年ではなかつた。先づ吾人は武力を以て建設に對する權利——世界に於ける最初の労働共和國存立の權利を獲得し且つ擁護せざるを得なかつたのである。一切はこの目的この問題の貫徹に集中せられた。經濟的生活は死滅し、平和的産業生産は殆んど零に歸し、全國工業の產出高は戦前の五分の一に低

下、農産業の總產出高の如き戦前の三分の二以下に低下した。

帝國主義的零團氣下にある財政は、帝國主義が戦争のために準備した「金」を悉く消費し盡したのである。彼等は政府貯金局又其他の金融機關を信頼して預入した人民の貯蓄を悉く無に歸せしめ、且つ何等の價値をも有せざる軍事公債と化せしめてしまつた。しかも帝國主義的戦争の蠶魚は更に新しき犠牲を求めた。「金」は不足し、印刷器は全力を濫いで日に月にルーブル紙幣を濫發し、爲に紙幣は急激的に下落又下落を重ね、遂に一九一七年末に於ては一留は已に十^{カネク}哥(約十錢)に低落したのである。

右の如き事情であるから税金及び豫算による租税以外の收入制度は自然破壊せられ、壊滅に歸した。是に於てか「十月革命」後は、(正確に謂へば一九一九年より)之に代ふるに實物徵收の方法を取り、尙足らざる所は國庫豫備品の殘部及び全然休止中の製造所工場の殘品を利用し、以て革命擁護の經費を支辨してサウエート國家存在の第一年の生活を維持したのであつた。

革命擁護の第一年、殊に新經濟政策實施の第一年に於ては右の實物徴收による收入の外に、尙收入の財源として帝政時代のルーブル紙幣に代るべきサウエー紙幣及びサウエー紙票の發行を以て之に當てたが、その紙幣發行高が如何に巨額に達したかは次の數字によつて想像することが出来る。即ち一九一七年十一月に於ける紙幣の流通高は二百二十億留で、四ヶ年半後の一九二二年五月には百二十兆、即ちこの期間内に約六千倍の増加を見たのである。しかし此等紙幣の實際上の購買能力はこの期間、一九一七—一八年より一九二一—二二年間に於て約十倍の急轉直下の大暴落を來し、従つて殆んど物品との交換能力を失ふに至つた。

この戦時共產政治時代、國內戰、及び之に伴ふて起つた全産業の破壊、私有財産の事實上の國庫併合の行はれた時代に於ける我が財政的事業は、紙幣の發行によつて收入を圖ると共に、本來が貨幣制度の廢棄を期するにあつたので、舊財政金融の機關を擧げて紙上決算の調査を司るプロレタリア國家の中央金庫勅定に轉化せしめ、同時に會計豫算（國庫歳

出入のみならず）によつて國民全産業の統一を企圖し之を統一せんとしたのであつた。

新經濟政策、所謂平和的産業立國の時期を劃せる新經濟政策は、「眞面目に且つ永久的に」國家又個人の産業、合法的個人營業權の存在を承認せるより出發せるものである。貨幣制度廢止の方針は、貨幣制度の改善及びその確立に變更せらるゝに至つた。之が根本條件として先づ先決問題たるべきは國庫歳計豫算をして缺損なからしむること、そのため印刷局より發行流通せる紙幣を國庫に回收することが必要であつた。この點よりして、國家的公務（郵便、鐵道、電車、地方自治體の公務）の有金制度に移ること、國營事業を經濟的基礎に置き、その利益を國庫豫算の收入に繰入れること、新階級制度に應じて建直しを行ひ、租税の現金制度に移ること等の實施を見るに至つた。

新紙幣は最初その比量に於て漸次下落の歩調を辿りつゝあつたが、猶且わが歳計豫算に於て重要な役割を演じたのである。その効果は次の數字によつて認めることが出来る。即ち一九二二年八十四%、一九二二年五十三%、一九二二—二三年二十九%であるが、一

九二二—二四年に於ては已に全豫算収入の八%に過ぎなかつた。自己の共同者を失つた食券制度、下落に下落を重ねたサウエート票は新經濟政策の初年度に於て勇敢に男性的に國民的サウエートの義務を遂行し、國家の財政を其危機より救つて墓穴に入つたのである。然るに一方生産力の發展に目覺めた復興的產業界、發展しつゝある物貨貿易額は益々確實堅固なる貨幣制度の確立、生産物貨の強固なる測定者、市場取引上の確實なる仲介者を第一條件として要求した。それがなければ實際上の生産的計算も國家の復興と興隆に對する計畫的指導も不可能であつた。

再興、否更に正確に謂へば新たに建直された國家的租稅及び收入の組織的な體系は、所謂産業振興を基準とする國家歲計支出上に於ける非常な緊縮政策と相俟つて、一九二二—二四年の中間には凡ての經濟的組織を硬貨制度に建直し、以て一九二四年の貨幣制度改革の基礎を築いた。

この改革の連鎖の一となつてゐるのは一九二二年の秋期に於ける國立銀行の紙幣チエル

ウオネツの發行であつた。この時より貨幣制度の復興が開始せられて歲計豫算の無缺損に成功し、その結果不換紙幣たるサウエート票より兌換紙幣たるチエルウオネツに確實に移ることとなり、始めて全サウエート財政組織の復興、確立、發展を見るに至つた。

貨幣制度改革に次ぐ四年間（一九二四—二七年）は、財政組織の確立と發達の年であつた。豫算は約二倍に増加し、地方豫算も之と同一程度の増加を示した。サウエート租稅體系の基礎に置かれた階級的原则は實際の上に試験せられ、この實驗に基いて稅法と收稅事務の完成を見たのである。此等は國庫の收入を補足するのみならず、一般國家に於ける資金の集積、民間産業に於ける資金の集積を調節する方法として有效であつた。國庫の租稅以外の收入、即ち國營事業國有財産よりの收入も著しい發達を遂げたが、これは所謂一國産業の整理が宜しきを得たことを示すもので又各種産業が一般國家、民間事業の一般的利害と相膠着して調整を得たことの直接の反映である。歲計豫算上の財源と實行豫算とを互に其の均等を得て整理が宜しきを得たことにも一大進歩を認めることが出来る。

全サウエート建設に於けるサウエート財政組織の根本的問題は唯一不變である。即ち社會主義産業の興隆、同時に全労働團體の福利の増進である。而して我が露國の如くテクニクに於て立遅れた農民にあつては此の興隆の道はたゞ一つ産業の工業化あるのみである。これがためには所謂わが工業、生産業、交通農業に莫大なる資本の注入を要する。

この問題の解決に當り我が財政機關が如何なる役目を演じつゝあるやは次の數字によつて説明することが出来る。

國家産業に注入せる資本の總額は、貨幣制度改革の時より起算して單に豫算面のみを見ると次の如くなる。

一九二四—二五年度	四億萬留
一九二五—二六年度	五億五千萬留
一九二六—二七年度	九億萬留
一九二七—二八年度	十億萬留

かくの如く四ヶ年間に於ける總額は約三十億萬留に達する。

一九二四年十月一日より一九二七年十月一日に至る三年間に於て、國立銀行及び四個の中央銀行（農業銀行及び地方銀行を除く）に對する民間産業の債務は約二十五億留に達してゐる。若し之に一九二七—二八年度に於ける豫定起債を加算すれば、民間産業に注入せられた資本額が四ヶ年間に三十億留を突破することは疑ふべき餘地がない。

この數字の價値は、若しサウエート國、計畫部の算定による注入資本の總額が四ヶ年間に百五十億乃至百六十億に達せんとの一事を記憶するに於ては思ひ半ばに過ぎるものがあるらう。

この六十億のサウエート硬貨が最近四ヶ年に我が産業界に注入せられた一事は、我が革命十年に際して我が財政機關の大なる誇りであらねばならぬ。

吾人は我が財政機關がサウエート聯邦の文化事業、勞農共和國の國防方面に對して幾何の資金を注入したかは此に贅言を費さない。固より此の方面に對する支出は、莫大なもの

である。
たゞ吾人には此に特記すべき一事がある。即ち我が國庫収入の一としての國債問題についてである。

帝政時代の國債は戦前の留を本位とし、内外債（鐵道外債をも含む）は一九一七年一月一日現在に於て百十億留と稱せられ、之が配合の割合は内外債殆んど半々であつた。鐵道公債（約二十二億五千萬留）を除き、この公債の全部は軍事的で、不生産的、反國民的のものであつた。我がサウエートの債務は帝政時代のそれと比較もすることが出来ぬ。我が債務は現在十億留を出ない。若し夫れ前掲の注入資本の數字と對比するならば、即ち吾人の債務は特に生産的債務、國民的債務、工業促進の債務、社會主義建設の債務と云ふことが出来る。即ち吾人が最近發行せる國債を名づけて「工業公債」と稱するのも偶然ではな

我が國債を増加擴張して豫算収入の増加を圖り、又之を以て國家の産業化國家の計畫的

事業に小資本を吸収することは、近き將來に於ける重大事業の一である。

サウエート票より戦時共産時代の實物徵集、ネツプ政策の初年發行せるチエルウオネツ紙幣より強固なる豫算政策、而して産業の工業化に對する財政的資本の注入等、是れ即ちサウエート社會主義建設當初の十年に於ける我が財政的事業の辿り來つた道である。（完）

サウエート露國の自動車化

サウエート聯邦自動車化の問題は最近實際的性質を帯びてきた。サウエート諸新聞はこの問題については大なる役割を演じて目下サウエート露國の勞働者間にはサウエート自動車運輸同盟の組織熱が頗る旺盛である。地方運輸機關に自動車及び其他機械の交通機關を廣く普及し、且つ道路の敷設、その改良を援助するため「自動車及優良道路の友協會（略稱アウトドル）が組織されてゐる。満十八歳に達し、選舉權を有するサウエート國民は誰でも會員となることが出来る。

新協會の主義宣傳のため、同協會ではサウエート露國及び外國に於ける自動車業の狀態各國に於ける自動車の普及、コンクリート道路の狀態等を掲載した一般向の書籍を發行するに決したといふ。

國內商業及び外國貿易狀態

サウエート聯邦の國內商業は、國營商業機關が卸賣、コーペラチヴの商業機關が小賣といふふうになら範圍を定め、個人商業の經營も新商業政策以來合法的に認めてはるが前記官公商業機關が國內商取引の大半を掌握し、その補助機關的に個人商店を許してゐるにすぎない。

また、外國貿易も、多少の例外は認めてゐるが、貿易國營の制度は革命以來、今日もなほ嚴守せられ、貿易はすべて政府のコントロール下に行はれる、といふやうにサウエート聯邦の商業、貿易は他國の制度と全くその趣を異にしてゐる。

左記は露西亞共和國での狀態を、同國人民貿易會議長エキスモントが、今年四月中旬に報告したのを基礎として記述したのであるが、これは移して以てサウエート聯邦全體

の狀態だとも差支へない。

▲内外商業人民委員會の沿革

勞農露西亞の貿易は、ブルジョア資本主義國家の貿易とは全くその趣を異にし、貿易にたいし、國家は非常な干渉をしてゐる。しかしその干渉も、國內の商業經濟狀態の變遷に伴ひ、或は時々政策の變動に伴ひ、常にその手心を異にするのである。

革命の當初、國內に商業らしき商業もなく、また速に商業機關を恢復して、國民の需用に應ぜねばならなかつた時代……すなはち千九百二十一年、新經濟政策を採用した當時においては、まづ國營商業機關を創設することを急務としたが、一面個人商店の開設もむしろ政府の歡迎するところであつた。けだし、當時國內の遠隔地方では、日常必需品が拂底してゐたにかゝらず、商業機關が皆無であつたため、工業製品は賣り捌くことが出来ず、たとへば莫斯科で隣寸が有り餘つてゐるのに、西伯利では玉子百個と隣寸一箱と交換

したり、あるひは獵師の使ふピストル一個と玉子百個と交換しなければならぬといふ有様であつた。

ところが、新經濟政策とともに、一年半の後には三十萬近くの商業機關ができ、現今ではその二倍になつた。その取引高も微々たるもので二十三年度は戦前の五分の一にも達せなかつたのが、二十六年度にはもう戦前の程度に近づいたと云ふ。かやうに發達した一面には、商業調節政策が、時により同一でなく、商業機關の發達を放任した點もあつた結果、官、公の商業機關はその本分を忘れ専ら利得に急なるの惡傾向を生じ、物價は騰貴する一方で、二十三年末には彼の有名な缺型經濟恐慌……工業製品と農産物との價格が非常に均衡を失し、工業製品も、農産品も共に販路梗塞し、國內の一般經濟界に大恐慌を來した……となつたので、政府は卸、小賣の値段引下げに大干渉を試みたが、はかばかしく行かないので、國家として斷乎たる方針をもつて、物價の調節を計るべく、二十四年春、内國商業人民委員會を設立し、二十五年末外國貿易人民委員會と合併して、今日の内外商業

人民委員會と改めたのである。

▲同委員會の任務

内外商業人民委員會の任務は、もつばら交易の調節を計り、國民經濟の伸張を期するにある。すなはち農業と工業の併行的發達を計るとともに、一般國民經濟の社會主義的發達を助けるのを根本方針とし、將來つぎのやうな任務を達成することになつてゐる。

- 一、外國貿易は國家とコーペラチヴとで全然掌握し、個人資本の活動を壓制すること
- 二、國家および全國民の必需品を遲滞なく供給すること
- 三、農産品と、工業製品の價格の調節

かくて後、はじめて國民經濟の發達を望みうべしと當局は認めてゐる。

▲取引高と商業機關

二十六年度になつて、國內の商取引高は戦前の程度に近づいたと云はれてゐるが、聯邦内の全取引高は戦前の留に換算して百六十億留に當り、そのうち露西亞共和國の分は七割を占める。二十七年度はさらに一割五分増加する見込であるといふ。

▲官公營及び個人商業

最近三ヶ年間に於ける三種の商業機關の商取引高を示すと概約(單位一億留)

	國營商業	コーペラチヴ商業	個人商業
一九二四年	四七	二〇	三七
二五年	七三	四〇	三四
二六年	一〇八	七〇	四四

右のうち個人商業は小賣界の四割以上をしめてゐるが、卸賣の方は官公商業が九割内外である。また個人商業の数が都會でも、村落でもつとも多いが、その内の七割は大道商賣、屋臺商賣で店舗を構へたのは三割にすぎないが官公營のは兎角御役人風を吹かせて横

柄なので、少々位ひ値段が高くて、個人商店の方が愛嬌もあり、叮嚀だといふので客足は多い、で政府當局の壓迫の強弱によつて時々變化がある。たとへば、一昨年個人商業の擡頭に驚いた當局は、必死となつて之を壓迫したのはよいが、閉店二十五萬軒、ために商業上の沙漠が出来、國營工業製品の賣行が、頓に減退したため二度びつくり、ふたたび壓迫の手を緩めたので、昨年来個人商店は、都鄙を通じまたまた擡頭し、殊に村落ではいまや侮り難き勢力を占めるやうになつた、といつて下手に壓迫すると商業沙漠が再現しさうなので、まさに痛し痒しのありさまである。

當局の方針は、今後都會においても、村落においても、出来るかぎり個人資本を壓迫せねばならぬが、壓迫も徹底的にやつて個人資本を撲滅しやうといふのでなく、或る期間は特殊の方面だけ、個人資本の活動を許しておいた方が、國家民衆のために利益だといふ方便主義である。

▲商品の供給

由來、商品の供給は決して圓滑に行はれてゐなかつた、輸送能力の不足、商業組織の不良、當事者の執務上の不敏活、工業生産力の不充分等の原因で、どうもうまく行かなかつた、現に昨年度村落の購買注文三十二億留、都會三十九億留にたいし、實際供給した商品は六十八億留で、三億留分は不足であつた。今年は村落四十三億、都會三十五億、合計七十八億留にたいし七十七億留ぐらひ供給はできると云はれ、餘程供給状態がよくなつてゐるらしい。

▲物價の不均衡

農産品と工業製品の價格が著しく均衡を失した、所謂缺型の經濟恐慌は、二十三年末を最とし、一時は當局必死の防退で緩和したが、二十五年下半期からまたく再現し、今年

一月一日現在では戦前の物價指數一〇〇に對し、農産物は平均一五五であるのに、工業製品は平均二〇三の割合に騰貴してゐる。此の比例は、換言すれば、農民は百四十留だけの生産品を手放さねば、七十留だけの工業製品しか手に入れられない。また戦前に一布度の小麦を賣つて得た工業製品が、今ではその半分以内しか貰へない状態だといふ、だから農村が衰微、疲弊しては工業の發達ができず、工業が發達せねば何時までも外國品を買はねばならず、それだけ正貨は國外に流出する、つまり工業製品の價格が高い間は國家産業の發達は期し得られない道理で、こゝに價格引下げ問題が當然と起つて來る。

▲價格引下げ問題

農産物の價格を引上ぐれば、工業製品の方も高くするから、之では際限なく引上げ競争を繰返へさねばならぬ。また農産物を高くすると、之を輸出して貿易の調節を計りつゝある輸出入政策の根本を破壊することになるから、どうしても工業製品の方を引下げねばな

らぬ、これには一面商業機關の經費節減と、他面工場における冗費を節約して、製造費の低下を計らねばならぬといふので昨年末以來、節約令を發し、政府は必死の努力を續けて來たが、事實今日までの成績は値段の下がつた品もあるが、あべこべに石炭は一割二分、セメントは七分、マッチ一割六分、石ケン二割六分、草麻子油一割二分、靴皮革五分といふふうに、昨年よりも生産原價が高くなつてゐるものもあり、例へ値段の低下した品でも、品質がそれだけ粗悪になつたといふので最近また騒ぎ出した。

經費節約、價格引下げ、品質改善といふことは、昨年末以來サウエート聯邦産業界の最も重大な問題として集會席上や、新聞雜誌面を賑はしてゐるのである。

▲多額なる附帶費

現在、聯邦内では各地方とも、工業製品は、六七割の附帶費を加算して小賣りされるのが常例で、今春も監督委員が或る工場の帳簿を差し押へて、大小百件の注文の内容を取調

べた處、内四十九件は十割、三十五件は十五割、十六件は二十割の純利益を食つてゐたことを發見した。又ある工場では注文主……多くは國營又はコーペラチヴの事業であり、つまり官公營事業相互の共喰ひである……を胡麻化して四十三割乃至五十六割の暴利を占めてゐた例も發覺したが、不當利得の最高レコードは百四十九割であつたといふ。しかも之が國營工場での實例だから尙ほ更ら驚く。又マッチの値段が、工場から需用者の手に渡るまでに五倍以上高くなつてゐたやうな例が、最近まで多々あつた。

かやうな暴利かたは、昨春以來の嚴重な取締で、だん／＼匡正されて來た、がそれでも六七割の加算はひどいから是非改めねばならぬと、當局は尙ほ着視を嚴重にしてゐる。

附帶費の嵩む原因は一、生産から消費までの間に幾多の商業機關の手を経ねばならぬこと、即ちサウエート式商業組織が、當初の理想に反し實際に適應せないこと、二、商業機關が徒に無用の經費を費し、かつ官公營の本旨に反して過多の利益を貪らんとする結果、自然多額、無法の附帶費が小賣値段の上にかかつて來るのである、と當局も自認してゐる。

▲コーペラチヴと其の缺陷

コーペラチヴは國內商業界に重要な地位を占めてゐる、がここにも矢張り無法なことが行はれてゐる。今春公表された一例であるが、ある國家機關の注文品を莫斯科の金屬工業同盟が落札した、が同盟では自分の手で現品の調製が出来ないため、利益折半の約束で地方の金屬工業同盟に請負はせた、その同盟は更にまた勞働組合に仕事をさせて上前をはねた。かやうにして最初の落札者は入札に頭を出しただけで、一萬留の利益をせしめた事實が發覺し、その不當利益の返還を命ぜられた。このやうな例は他國でも決して珍らしいことではあるまい、しかし今の露西亞では絶対に左様なことを防止し低廉に消費者に供給するために、生産、分配の本元を國家又は公共の機關で掌握してゐるところに、サウエーフト式經濟組織の生命があるのである。しかも官公機關の營業の實際は前述の如く、他の資本主義國と毫も異るところなく、かつ官公機關が常に共喰し合つてをるに拘はらず、一

面に於ては多くの利益を擧げる従業員は、所謂技能優秀の専門家として好遇されるといふ矛盾さである。

また、此の外コーペラチヴは、徒に多數の従業員を使用したり、緊要でもない經費を多額に費つたり、執務が官僚式で、物事が迅速に運ばぬといふやうな通弊が、年と共にひどくなつて来る、で當局は、これは畢竟するに、民衆と接觸せないから勢ひ御役所式になるのだから、將來コーペラチヴを一層民衆化して、今までのやうな、官僚的な、または高利貸的な利殖の弊害を除去せねばならぬと、頻りと小言を並べてゐる。

▲外國貿易

外國貿易の成績は戦前に比しては勿論、現在國內の他の經濟部内に比しても、著しく遜色あることは當局も自認するところである。

帝政時代の露西亞は平時十五億留の國産品を輸出してゐた、しかるに最近三ヶ年間全聯

邦の對外貿易を見ると。(單位百萬留)

	二四年度	二五年度	二六年度	一三年度
輸出	五二三	五五一	六六七	一、五二〇
輸入	四三九	七二〇	七五六	一、三七〇
計	九六二	一、二七一	一、四二三	二、八九〇
バランス	出超 八三	入超 一六九	入超 八八	出超 一五〇

これでも三ヶ年間に輸出は三割弱、輸入は七割強増加したのであるが、まだ戦前の半分にも達しない。二十六年度は穀物の輸出計畫に大障害を來したから、今年度は一億留位ひ増加させると當局はいつてゐるが、輸出計畫の齟齬は穀物ばかりではない。現に計畫一〇〇にたいし卵五〇、バター類六一、木材六八、石油九五、しか實行できず、穀物の九六はまだいゝ方である。この輸出不振の原因は、戦前は民衆の利益を無視して無法なる輸出を敢てしたに反し、現在では國民の需用を第一位においてゐるから、輸出が少いのだと説明してゐるが、之は詭辯といふもので、何といつても革命的、經濟制度の破壊改革に伴ふ産業の

不振が、輸出減退の原因であることは、三尺の兒童も察知するところで、當局が國家機關や、國民の需用を抑止して輸入を極度に制限し、他面一留でも多額に輸出して、貿易の均衡を保ち、あわよくば輸出超過を計ることに腐心してゐることは、歴然とサウエート公表物の自ら立證してゐるところである。

輸入にあつては、國內産業の發達上に必要なもの、例へば製作機械とか、原料品とか、半加工品とかを優先的に輸入してゐる、これはサウエート聯邦の如き、極度の財政難の國家の當然とるべき方針である、輸出入上の經費に冗費の多いこともまた、缺陷の一つと認められてゐる。

◎國民富力の減退

現在のサウエート聯邦國民の富力が、如何に減退して居るかといふことは、歐洲戰爭前の貯金高と比較するとよく判る（戦前の數字は現在の聯邦領域内の分を示す）

國立貯金局數	一三年一二月末日	二七年五月一日
貯金總額	七、〇〇〇局	一四、六〇〇局（二六年末日）
口座總數	一、四四八萬口	一四三萬口
一人當り預金額	七六八萬口	一七六萬口
	一八九萬（一四年末日）	八一萬

みぎの通り貯金局の數だけは戦前の二倍になつたが、貯金額は十分の一で、一人當りの貯金高も四割三分にしか當らぬ、また當局の發表によると預金者の九割四分までは、都會地の労働者や勤め人で、その預金の九割九分までは、生活に餘裕があつての預け入れでなく、萬一失業の場合の用意にと、苦しいうちから幾分づゝ貯金してゐるのだといふ。

サウエートの

工業化難

現在の政策では多難……空理空想に終らん

エヌ・シヨルタニヤ教授

左記はチエツコ・スロツキヤ國首府ブラーグ市に立籠つて、盛んにサウエート露西亞の内治外交を論評し、在外露人間に重きを爲してゐる、露西亞社會革命黨の中央派、左翼派の機關誌ウオーリヤ・コシー誌の最近の誌上に掲げられた、エヌ・シヨルタニヤ教授の論文の要領である。論者は本文においてサウエート露西亞の工業化が極めて困難で、前途遠慮であること、寧ろ現在のやうなやり方では畢竟空理空想に過ぎないことを説いてゐる。文中聊か公正を失するやに思はれる點もあるが、また好箇の露西亞研究資料である。

露西亞共產黨の幹部派は、黨の紀律問題では反對派と妥協をしたが、政策問題では相も變らず論争を續けてゐる。然らばこの兩派の意見不一致の根本的問題は何かといふと、そ

これは「サウエート聯邦は、如何にせば國內の原料でもつて自國內の工業を振興せしめ、農業國から工業國たらしむることが出来るか」といふ問題である。

抑もサウエート聯邦は、唯一無二の、經濟的單位の觀を呈してゐる國家である。聯邦は「國有化」といふ手段をもつて莫大なる工業資本を掌握した。しかしながら自力ではこれだけの富源を維持して行くことは出来ない。従つてその大部分は荒廢せしめる外はない。そのまた荒廢の原因は何處にあるかといふと純經濟的關係……といふよりも、技術的時代遅れのためといつた方が適切……にある。乃ち工業は間斷なく資本を注入し、機械を改善修理してもつて製造力の増進を計らねばならぬのに、聯邦の工業はこれを爲すこと少く、加ふるに技術的に時代遅れの觀があるので、その工業は次第に衰退し、反對に農業の發達を促がすことになつたのである。その證據には、戦前の露西亞の産業收入總額百十七億七千萬留中、農業收入六十一億二千萬留、工業收入五十六億二千萬留で、農工業の收入は略ぼ同額を示してゐたのに、現在では、ルキコフ人民委員會議長の言によると、農業の總收

入百十億留に對し工業は五十億留、すなはち農業の收入は工業收入の二倍以上を示すに至つたといふ。だから「若し農村經濟と工業とが、年々同一の割合で進むならば、それは國家の農業化を意味するものである」とルキコフ氏がいつたのは至言である。また農業に従事する國民の數も非常に増加し、この點ではサウエート聯邦は、印度を除いては他にその類を見ない。斯様な農業化の傾向が著しくなると共に、工業製品と農産物との不均衡は生ずるのである。



轉じて市場の實情を見るとどうであるか。戦前の市場における工業製品は、商品としての農産物の三十二%を示してゐたが、現今ではその率は更に低下した。しかも農民が市場に出す農産物の量は少くなつたのである。これも工業衰頹の一例であるが、かやうな状態では工業の發達を期待することはとても出来ない。のみならず、若し自由競争を許すとなれば、聯邦國營工業は個人工業、手工業との競争さへ不可能である。サウエート工場は手

工業者と一騎討の競争をしたならば、到底その存在を續けて行くことが出来まじきほど、基礎の薄弱なものであるから、勢ひサウエート官憲はその工業の維持に特別の手段を講ぜねばならなくなつた、此の一般状態こそサウエート經濟政策の如何なるものかを説明して餘りあるものである。

つまりサウエート式工業と、ブルジョア式工業とが併馳してゐるのであるが、サウエート式工業の方はその生産を經濟政策によつて定められ、またその資本に制限を受けてゐる爲め發達の能力を有せざるに反し、後者の方は個人資本であるから活氣に富み發達の可能性を備へてゐる。ここにおいて前者は經濟力以外の力を藉りなければならぬ必要に迫られる。乃ち警察力の借用である。ブルジョア社會における資本の蓄積は、純資本主義手段によつて、生産を交換の範圍内において行はれるのであるが、サウエート社會では、他の財産に對し、間斷なく加へられる警察力の壓迫によつて資本の蓄積が行はれる。すなはち生産においては労働者に、交換においては農民に對し兩方面から國家の法律の威力を藉る壓

迫が加へられるのである。更に換言すれば、サウエート工業は公債の發行と、壓制と、プロレタリア及び農民の膏血を絞ることによつてその存在を續けてゐるのであるから、サウエート工業はブルジョア諸國の幼稚な時代の工業状態に等しく、しかもその缺點ばかりを持つてゐるのである。工業の幼稚な時代には、各國ともに工業化と口を極めて工業至上主義を唱道したものであつたが、今日サウエートが工業化を叫ぶのは、先進國の工業の幼稚なりし時代の標語を眞似てゐるのであるから、決して褒められた譯のものではない。



サウエートの大官連は自國の工業の自然的發達を助長することには少しも考慮を拂はない、適當の施設もしないで、反對派も幹部派も、工業に對しては國家がその後見役として干渉すべき事を主張してゐる。ただ工業を振興させるためには農民をより多く犠牲にすべきか、はた労働者の膏血をもつと絞り上げるがいかといふ點で兩派の工業政策に相違が

あるが、兩派とも工業の犠牲に供せられる勞農民に対する同情などは少しも持たない。勞農民の悲境を緩和することなどは少しも考へず、たゞヨリ以上勞農民を虐げて以て工業の發達を計らんとするものである。

が、嘗て英國が工業化の爲に農民の土地を沒收して失敗したと同様の結果は、農民の生産品を支配するの手段によつて工業化を計りつつある、サウエート露西亞にも必ず招徠さるべきもので、また舊式の對植民地政策と同様のやり方である。しかも反對派は農民の反抗力を全く殺ぐに至つたといふが、左傾的方針の成功した例は歴史上に一つもないことを知らないのである。英國は封建制度の社會を資本主義社會化、すなはち工業國家に變じ得たが、露西亞は純資本主義經濟を、國家警察經濟化し、工業力の薄弱な國に一變せしめた、しかして現在サウエート露西亞で行つてゐるやうな、工業の保護に警察權を用ひることは、工業を破壊すること以外、何等の利益をも舉げてはゐないのである。

一體工業化の成功は、農産物が市場に豊富で、農民の生活が豊かで、工場は容易に労働

者を收容し得るやうな時代においてのみ可能性があるのであるが、今日のやうに、市中には失業者が充満し、労働者はドン底の生活を餘儀なくされ、農民は窮乏に泣く時代においては、工業化政策なんかとても成功の見込はない。だから反對派の絶叫する工業化政策は畢竟、空理空想で、實際とは頗る縁の遠いものといはねばならぬ。が一方幹部派の方でも労働者虐めを根本方策とし、勞銀政策でもつて労働者から勞力を搾取し、農民からは價格政策や、租稅政策でもつて農産物を搾取してゐるのである。

斯様な状態であるから、サウエートの工業はプロレタリアの自由運動を保證し得るだけの實力を持たない。またその労働者は「生産の自然的法則」を備へてゐない。だから労働者をもつて工業化の主なる原動力としてゐる處の共産黨の希望は到底達成せられまい。

また工業そのものにおいても一つも成功の可能性を持つてゐない。ブルジョア諸國では利益の擧らない工業は直ちに操業を停止し、有利な工業に向つて力を注ぐのが必然的法則

であるが、サウエートの工業は利益のないものが甚だ多い、且つ工業の經營から直ちに利益を蓄積することをせないで、官營商業の手段によつて工業資本の蓄積をしやうといふやり方であるから、尙更ら工業の意義を減却してゐる状態である。

元來商業資本を重要視したのは經濟界の幼稚な時代のこと、現代では工業資本の方を重要視する時代に入つてゐる。しかるに「工業の利益金」としてサウエート官邊の發表してゐる數字は、實は工業經營によつて擧げる利益でなくして、權力を行使して得たところの所得金であり、政府は粗製濫造品を原價の數倍の高價で賣りつけて得たる金を工業の資金としてゐるのである。人民委員會議長ルイコフ氏は嘗て「農民は工業製品の高價なるがために非常な苦痛を受けてゐる」といつたが、この苦痛、散財の額は、ポリシエウイキの勘定したところによると約十億留に相當してゐるといふ。(最高國民經濟會議機關紙、經濟生活紙昨年十月一日所報)

農民の一ヶ年の苦痛は實に十億留に相當するといふが、都會住民の蒙むる損害、苦痛は

詳かではない。しかし勞働者、従業員が農民と同様、乳牛のやうに搾取されてゐることは一向變らない。蓋し外國貿易の獨占なるものは實にこの目的で行はれ輸入品は二十倍、三十倍の懸値をもつて屢々國內で販賣されてゐるのである(經濟生活紙昨年一月所報)。「商賣を興へよ」とのレニンの標語をサウエートの經濟學は悪用してゐるのである。

斯の如く工業經營そのものの利益ではなく、官營商業の手段による利益品の獲得が行はれてゐるものであるから、サウエート工業は、薄利多賣主義のブルジョア工業の方針とは全く雲泥の差があるのである。また斯様なやり方であるからサウエート工業は、當然莫大な利益を擧げてゐなければならぬのに、否な實際に工業製品からの利益は巨額であるに拘はらず、工業は一向振興の様相がないのは何故かといふと、商業が死に金を費つてゐるからである。



サウエートの商業は法外の利益を貪つて、ただ現物を轉換することだけを仕事とし、敢

て商品の數量増加を眼中に置かないのだから、國家は何等の利益をも得られない。ブルジョア諸國においては、商業利益の源泉は労働者である。工業家はその利益の一部を労働者に提供し、自ら多くの利益を得やうとしても、その製品が他より高ければ、誰しも買はないから、購買者も労働者も同一利害關係の下に置かれてゐる。工業製品の値下げが製造力を増加し、且つ資本蓄積の唯一手段であるが、これに反しサウエート社會では、資本蓄積の方法はただ高價に商品を販賣することのみに限られてゐるから、商品の製造方面に制限が行はれるのである。斯様な手段で得た資本は決して國家全體の富とは云ひ難い。ただ經營者、工業獨占者の利益であり、高利貸の利益と同一である。

工業家はその製品が高價に賣れて行くのを見て、歎聲を揚げて、それは東の間で、原料の價格が従つて騰貴し、製品が高價なるがために労働者の生活費が膨脹し、延て勞銀の値上げ要求となつて來ると、昨日の歡喜變じて今の悲哀となるのは當然である。

さてサウエート工業の利益が幾許あるか、その正確な數は到底判明せない、が最高國民

經濟會議長クイブイシエフの言によると、今年度の工業益金は四億七千四百萬留であるといふ。勿論その中に銀行の貸出や、豫算からの支出などを包むのかどうか一向判らない。それは兎に角、ブルジョア諸國では利益のない企業は事業を打ち切つて閉鎖するが、サウエート政府は實際破産状態にある工業にも、他の比較的成績のいい工業から資金を埋め合はせてゐるのであるから、現在の状態では自力で工業全般を維持することは出来ない。で第十五回黨聯合大會(昨年末)でルキコフの提出した案でも判るやうに、國家の豫算と、個人資本の力を利用せねばならなくなつたのである。ルキコフ氏の言に従へば、最近三ヶ年間工業のために國家の豫算から支出した資金は十三億留に達するが、その内回收されたのは五億六千七百萬留だといふ。

◇ 國家の豫算の力を藉りるやうな工業化は成功の見込なしと見て差支へない。何となれば豫算は國民の膏血を絞つて官營工業に注ぎ込むポンプ作用に外ならぬからである。と云つ

て個人資本の拡大を許せば、工業化は促進せられるに相違ないが、サウエート露西亞では個人資本は禁制品も同様の待遇を受けつつある今日、これは不可能のことである。また國民の貯金を奨励し、これを利用せうと思つても、僅かの貯金にも保證を與へないやうな政府の貯金局を國民が信用して大事な臍繰りを預ける道理はない。ルキコフ氏が、帝政時代に比して國民の貯金額が少いと憤慨したところで、憤慨する方が無理である。

工業化のために最も必要なのは、銀行の貸出しであるが、しかしサウエートの銀行は獨立した資金を有せない個人資金を吸集して有利の事業にこれを投資することは、純資本主義制度の存在を許さないお國柄であるから、これは不可能である。

トラストも銀行同様國家機關であり、一定の豫算によつて存在を續けてゐるのである。でトラストでも銀行でも政府に對する債務はなかく辨償せない、工業資金の運用も資本主義國のその如く採算的に嚴重には行はれない。また折角無限の天與の富源を有しながら、しかもその經營の實權を有しながら、これも交通、運搬等のために莫大の施設費を投

ぜなければ利益を擧げることが出来ないから。従つて容易に富源の開拓に手を出せない。



以上の様な状態であるから、サウエートの工業化も、言ふべくして行ひ難く、誠に前途遼遠で、大工業は無論のこと、紡績、製糖業のやうな小工業も發達の見込がなく、製品拂底し、國民は必需品の缺乏に悩まされてゐるではないか。また露西亞國內に多く産出する棉花、皮革などもこれを外國に仰ぎ、現在それ等の輸入高は、全輸入品の四割を占めてゐる有様である。でサウエート當局の工業化政策に信賴することは益々出来なくなる。眞に工業の繁榮を計らんとするには、どうしても國家資本、個人資本、コーペラチヴ資本、自治機關資本に一律平等に權利を附與せねばならない。

サウエート政府は産業の共産主義を放棄し、新經濟政策(ネツプ)を採用したが、しかもこれは警察式ネツプに過ぎない。だから斯様な産業發達上の障礙物を取り除かなければ、眞の工業化は出来ない。この障礙物を取り除くには、共産主義者が變説して自發的にする

か、或は他の壓迫のため餘儀なくせしめらるるか、何れにしても歐洲諸國民と共存共榮を計らうとするには、更に偉大なる革命が行はねばならぬ……。

- 結婚式を擧げにお寺に行く時に雨が降ると夫婦仲が悪くなり、天氣がいと陰じくなる
- 蟋蟀が家の中にあるやうになると直ぐ其の家から出て行かねばならなくなる
- 食卓からナイフが落ちると其の日に一人の客が来る、フォークが落ちると澤山の客がある
- 寢臺から左足で起ち上ると終日氣持が悪く、右足で起ち上ると氣持がよい

露西亞人も着目せる

沿海縣の米作

天與の富源を有する沿海縣は、金、鐵、銅、モリブデン、石鉛などの鑛物や、無盡藏の木材以外に、農業も前途ますく有望でことに米は將來沿海縣の一大産物にならうとしてゐる。沿海縣に米がはじめて栽培されたのは千八百六十、一年の事であるが、その後、顧みるものなく、千九百十七年に至つて漸くまた着目さるゝに至つたのである。

普通種の發芽時期には三千乃至四千五百度の濕度を必要とするが、沿海縣では最大限二千七百五十度しかないから、最初の米作は不結果に終つた。しかし北海道や、北鮮の濕度二千四百七十度程度の地方ですら成熟するのである。米種によつては沿海縣の米作は仲々に有望とせられて居る。米作面積の年別は(一デシヤーチンは日本の一町二反餘)

一九年

三〇〇デシヤーチン

二三年

七、〇〇〇

二〇年	二、五〇〇	二四年	六、〇〇〇
二一年	六、〇〇〇	二五年	八、〇〇〇
二二年	八、〇〇〇	二六年	九、〇〇〇

現在では水田一デシヤーチンから二百ブード……平均百五十ブード（一ブードは日本の四貫三百六十匁）の收穫があるが、籾の平均価格は一ブード當り二留乃至二留半であるから、一デシヤーチンの純収益二百二十七留乃至二百七十六留に達し、他の農作物の一デシヤーチン當り純益四十留乃至百留に較ぶると非常の差である。

その後ボグラニーチナヤ（露支國境）、ニコリスク（浦鹽の西方）附近で、米作水田のため灌漑の設備をなしてからは、産額も一デシヤーチン當り三百三十ブードといふ好成绩を示し、ますます有望な事業たる事が判つてきた。昨冬來ニコリスク郡々營の水田擴張地と米作に好適の土地三萬デシヤーチンを有する興凱湖の附近に大規模の灌漑工事に着手してゐる。（莫斯科政府機關紙）

熟語解説

ノージユニット型

……大藏省發行、通俗財政經濟辭典による……

ノージユニット（鉄）といふ語は、共産黨第十二次大會（千九百二十三年春）でトロツキーが工業に關する報告演説を爲した際、農産物と工業製品の價格の差が著しいことを言ひ現はすために、始めて用ひた言葉である。

新經濟政策實施の第一年目（一九二二年度）國內一部地方の凶作で農産物の値段が上つた結果、ノージユニットはやや緩和を見たが、翌年度は豊作であつたので、工業製品との値段が著しく開きを生じた當時農産物の市場出廻りは二十二年度は戦前の五十七%であつたのが、二十三年度には七十五%に上つた、に拘はらず工業製品は戦前生産高の二十二年度は二十二・六%、二十三年度は三十・四%に過ぎなかつた。

その後農産物の生産は益々増加するが、工業の生産は之に伴はないので逐年兩者の價格の差は著しくなり、物價指數は農産物一に對し、工業製品は

二二年九月	〇、九四	十月	一、一〇
二三年四月	一、九八	十月	三、二九

しかし當局で穀物の輸出に努めたので二十三年十月から農産物の値段が上がリ、工業製品の方がやや下がつたが、それでも兩者の關係は二十四年三月一日は一、三六を示した

註、ノージユニットは今尚ほサウエート經濟界の難問題の一であるが、政府の經濟政策が根本から變らない以上、到底根本的に解決を見ることは難いであらう。

經濟上から見た

西伯利交通路の將來

——ハヴロフスク發行極東執行委員會機關紙所載——

東は太平洋岸から西は裏海に達する廣漠たる西伯利及び極東露領に於て、たゞ一條の西伯利鐵道によつてその經濟を調節せんとするが如きは到底覺束ないことである。西伯利が種々の礦物に富んで居ることは周知の事實であつて、南部地方は農業に適し小麥、裸麥、麻等を産し、沿海州方面には米、煙草及び雜穀が栽培され、其の他の地方でも牧畜、家禽の類を飼養することが出来る。現在の西伯利は農業を始め一般の産業が未だ幼稚の域を脱しない状態であつて、大戰前に比較すればほんの僅か進歩した位の程度で、茲に交通路の新設は刻下最も緊要とされるものである。

植民計畫に従つて新たに歐露から西伯利及び極東方面に送られる移民は、鐵道と水路に

よつて各地に分散しつゝあるが、彼等は從來の幼稚な經濟施設を改善して進んで新産業を興すこととなり、斯くして經濟上から見た交通路の新設は益々早められるであらう。

茲に考慮すべきは、新交通路は如何にまた何れの方向に建設するかの問題である。地方の繁榮を圖るため交通路を新設するに當り、建設に容易な地點のみを選ぶことは不利な場合がある。例へば、ウスリ鐵道のスレチエンスクからイマンに至る區間がそれである。同鐵道は黒龍江、ウスリ河に沿ふて僅か五露里乃至三十露里（一露里は我が九町四十五間）を離れてゐるにすぎないため、河川航路と重複し結局資本を無駄に消費することとなり經濟上頗る不利である。交通路を新設するに當つては水路、鐵道共に經濟上の大局から打算しなければならぬ。露西亞は北米大陸とは僅かに七十五露里のベーリング海峡によつて隔てられて居る。米國や歐洲では堤防を築き、或はトンネルを開鑿しつゝあるに鑑み、將來は舊世界と新世界とを連絡する時代が到來しないと限らない。

露西亞は一般經濟界の振興と相俟つて、技術の進歩發達を計るべきは勿論であるが、若

し將來兩大陸の連絡交通路が完成されるものとすれば、西伯利に於ける新交通路は、トムスク、エニセイスク、ヤクーツク、マルコウオを通過することになるに相違ない。この交通路は、大體西伯利の經濟上の要地を通つて居るから、大陸内の過剰の天産物や又は海路によつて輸送することの出来ないやうな貨物の輸送を爲すことが出来る。右交通路地方一帯には多量の石炭、金礦を包蔵され、また數百萬ヤシヤチン（一デシヤチンは我が一町一反四畝八歩）に亘る處女林が生ひ茂つて居る。而してこれ等天然の富源を開發するに従つて右鐵道幹線の經濟的價値は増進されるであらう。

斯くの如き大幹線には、經濟的開發を助成すべき補助線の建設が必要である。先づ第一の支線としてカムチャツカ半島の不凍港ベトロパウロフスクと連絡すべき線路である。之れによつてカムチャツカ地方の經濟狀態を調節し、尙米大陸、アウストラリヤ及び太平洋諸島との商業經濟上の關係が一層密接の度を加へるであらう。カムチャツカ半島には硫黃礦泉が湧出し、火山地方には温泉を有し、且つ中央地方は大陸的氣候であるから露西亞中

で最も興味ある療養地の一となるであらう。

次に極東地方のために經濟的關係を有する交通路として左の三線がある。

(一) ヤクーツク—エキムチヤン—ハッロフスク間であつて、之れにより大陸間の交通幹線と浦鹽とを結び付け、地方の經濟的發展を促進すべきは勿論米大陸への通過貨物や乗客を運送することが出来る。

(二) ウイチャムスコエ—キエムチヤン—ニコラエフスク—ホギイビ間であつて更に韃靼海峡を経て北樺太島へ至るものである。この線は殊に砂金礦地方を通過し、採金事業を刺激し、又北樺太の石油、石炭、漁業其他の産業を振興する事が出来る。またセレムジャ河に依りエキムチヤンに至る汽船の航行も黒龍江國營汽船會社の手で益々發展を見るに至るであらう。エキムチヤンを起點として二大鐵道幹線と水路（セレムジャ川）に依る交通路が出来ることになる。かゝる交通路の連絡は經濟的に見て有望であり、ゼーヤ川、ブレヤ川には何等惡影響を與へないであらう。

(三) チタ—ウイテムスコエ—大陸連絡幹線に至るもので、これはザバイカル地方の産業發展に資せられ、尙米大陸への通過貨物及び乗客を運送することが出来る。上述の交通路は、主として極東地方のために意義を有するものであるが、更に西伯利全體に取つて經濟的關係を有する交通路としては、次の三線を挙げねばならぬ。

(一) セミバラチンスク—ビイスク—ミヌシンスク—ニジネウヂンスク—ウイテムスコエ間で、大陸連絡幹線に通ぜしめる。この交通路は産業地アルタイ地方と遠隔の僻地とを結び付けることになり、物資の調節をはかることが出来る。アルタイ地方からは果物、穀物、肉類を運送する外、旅客並にベルシヤ、トルコ、アフガンからの通過貨物を輸送することが出来る。

(二) オレンブルグ—セミバラチンスク間で、主として農業の發達を促がし、同時に農産物を輸出すべき使命を帯びる。

(三) セミバラチンスク—外蒙古庫倫—カルガン(灤家口)—ウエルフネウヂン

スク間である。

次に、西伯利の水路に關しても天然の狀況、並びに安價な交通路として充分に研究すべきである。河川の連絡としては

(一) レナ河—エニセイ河—黒龍江

(二) 黒龍江—セレンガ河

(三) ウオルガ河—オビ河

(四) オビ河—エニセイ河間は既に連絡が出来てゐる

上述の交通網の建設は、露西亞現在の財政状態に於てはその實現容易でないであらうが、然し文化の進歩に應じて將來實現される時代が來ないとも限らない。

四、外交並對外赤化宣傳

サウエートの外交方針とその手段

對外關係總說

六、「サウエート」聯邦の外交方針と其の手段

「サウエート」聯邦の外交の大方針は曩に建國の精神に於て述べた如く、世界の所在の國々を赤化し、之を自己と同主義の國家たらしめ、次で之等を糾合して全世界に大共產主義團體（國家にあらず）を作るにある。此外政の大方針は内政に於て前述の如く逐次右偏政策を採用しつゝあるにも係らず今日に至る迄何等變化を來して居らぬ。

抑々「サ」聯邦が全世界の共產化を終局の目的とする所以は「資本主義國家の包圍の下には共產主義國家は存立し能はぬ」（「サ」聯邦政權者の言）からである。何となれば、資本主義國家は心能く共產主義國家と交際する事を喜ばぬ爲兩者間の貿易の如きも順調に行はれ

ぬ、従つて世界の分業上の恩典を得る事は出来ぬ、現に農産國にして工業の低級なる「サ」聯邦の如きは早速苦痛を感じねばならぬ、其他主義上の差異の爲資本國家は、共產國家に對し各種の政治上の壓迫を試みる、例へば勞農革命後、日、英、米其他の資本主義國家が「サ」聯邦の内政に干渉した如き之れである。

故に「サ」聯邦にして此の國際的主義を放棄すれば自滅の外はない、又國內の人民に世界の革命は直に實行せられるものであると高唱した立場上、是非世界赤化を現出し人民をして政權に信頼せしむる必要がある、要するに世界糾合政策は自己存立上已むを得ざる方針である。

以上の世界共產化大方針を遂行すべき手段は勿論世界赤化政策である、然し、單純に赤化政策のみにて進む事は到底目下の「サ」聯邦の實力及四圍の状況上不可能である。従つて此の赤化手段の外普通の外交的手段及民族自決の精神を利用してゐる。

普通の外交的平和手段を用ふる方面は要するに國際信用を得んとする方面、及自己が一

時防勢に立たんとする方面である、例へば支那方面に赤化政策を施す一方歐洲方面に於ては一時防勢に立つ必要上、平和的外交手段を用ひつゝあるが如き之れである。

民族自決の精神の利用とは即ち自己國內に多數の民族共和國を構成し、又は異民族軍隊を編成し他國の異民族の民族自決の精神を刺戟し又殊更に他國との國境に接し自國內に民族共和國を創立し、之れに依り他國內にある同種民族に強烈なる刺戟を與へ、他國內の民族を獨立せしめ、次で之を自己領内の民族共和國に糾合するが如きである、其例としては大正十三年後具加爾に外蒙古國境に接し「ブリヤート、モンゴリー」共和國を構成し、外蒙の同種族を刺戟し、事實外蒙の獨立を招來せしめたるが如き、又大戦後羅馬尼亞に併合せられたる「ベッサラビア」を自國に糾合する手段として特に其國境に接し「モルダビア」自治共和國を創設したるが如き之れである。

世界赤化手段

世界赤化政策は「サ」聯邦の唯一重要な外交手段である。而して此の赤化を行ふべき機關としては左の數種を數ふる事が出来る。

第三「インターナショナル」(國際共產黨)

國際職業同盟

國際農民同盟

國際購買組合

國際革命闘士後援會(モープル)

國際ピオネール(國際少年團)

クス通信

在外「サ」聯邦使臣

在外「サ」聯邦通商代表

此の内二三を説明すれば。

世界赤化手段の大立物は何と云つても第三「インターナショナル」である。「サ」聯邦爲政者は此第三「インターナショナル」は國際的一種の思想團體で何等「サ」聯邦と關係がないと云つて居るが、之は詭辯も甚しいもので第三「インターナショナル」の幹部の大部分は「サ」聯邦共產黨幹部であつて、此「サ」聯邦共產黨幹部の大部分は之亦「サ」聯邦政府の重要人物である。要するに「サ」聯邦爲政者が第三「インターナショナル」の幹部であると云つて差支ない、第三「インターナショナル」が「サ」聯邦と何等關係ないとは眞赤な詐である。又第三「インターナショナル」の首領たりし「ジノビエフ」の如きは「サ」聯邦の施政方針を攻撃した理由を以て第三「インターナショナル」の首領の位置を追はれ左遷せられた如きは明に「サ」聯邦政府と第三「インターナショナル」との關係の密接であり、同一體である事を如實に示すものである。

第三「インターナショナル」の世界に於ける會員は總計百六十萬人で之を國別にすれば、

サウエート聯邦	一、一五〇、〇〇〇
獨逸	一五〇、〇〇〇
佛蘭西	五五、〇〇〇
チエツク	一一〇、〇〇〇
英國	一一、〇〇〇
米國	一七、〇〇〇
伊國	一五、〇〇〇
支那	一一、〇〇〇
其他	一五、〇〇〇

國際職業同盟が赤化に任じつゝある事は昨年五月の英國炭坑罷業の際、「サ」聯邦職業同盟から援助資金として一千百萬留を送金した事實を以てするも明である。

國際闘士後援會(モーブル)とは世界革命闘士の家族、遺族、其他の救済の爲設けられたるもので、既に世界の四十二ヶ國之に加入し四百萬の會員を有し、七百萬留の基金を持つてゐる。

タス通信は「サ」聯邦唯一の通信機關であつて此通信を経ねば、國內の通信を外國へ、外國の通信を國內へなす事は出来ぬ。「サ」聯邦が自己に都合好き通信のみをタスに取扱はしむべきは明である。

在外使臣、通商代表等が赤化に任じつゝあるべきは、北京「サ」聯邦大使館搜索に依り強見せられたる書類を以つてするも疑ひの餘地はない。

宣 傳 費

「サ」聯邦が世界赤化の爲幾何の資金を投出して居るかは議論ある處で、或る者は經濟上善境にある「サ」聯邦として尅大なる資金を投出す事は出来ぬと云ひ、或る者は「サ」聯邦の

生命は世界赤化であるから自己の苦境の如きは顧る事なく尨大な宣傳費を湯水の如く使つてゐると云つて居る。

北京大使館搜索に依り得たる證據書類に依る時は一昨年十月より昨年四月に至る半ケ年分の對支經常費(大使館費を含む)九三、八六〇米弗、馮玉祥援助費として一四八、八三〇米弗、國民第一、第二軍援助費として一四一、二四〇米弗、廣東費としては廣東方面よりの經費報告の未着の爲計上してないが若し之を、馮援助費と同様約一五〇、〇〇〇米弗とする時は合計五三三、九三三米弗即ち一年間に約百十萬米弗、之を日本貨とすれば大約二百二十萬圓である。

此外馮軍、廣東軍等に武器其他の援助をなした額が多額に上るべきは明である。以上は支那のみに對する資金の援助に過ぎないが全世界に對して投出した額は蓋し莫大なるものであらう。

「サ」聯邦の國際革命國士後援會は本次の支那時局に對し會員收入の二%を賺出した、昨

年五月の英國炭坑罷業に「サ」聯邦の職業同盟は收入の幾%かを賺出し、罷業資金として千百萬留を英國職業組合に送つた、其他世界赤化の資金として時々官吏より俸給の幾%かを出し、又演劇を試み其收入を他國に送つた例は度々ある。特に「サ」聯邦で注意すべき事は政權が共產黨一黨のみにて成立して居る關係上尨大なる機密費を計上する事は易々たる事で此機密費が他國の宣傳に使用せられつゝある事は想像に難くない。

西歐方面に對する最近の外交

革命直後「サ」聯邦は世界赤化の大方針に基き一意西歐諸國の赤化政策に邁進した、然し數千年の歴史を有し、外交的紛争に練磨せられ文化の比較的高級なる西歐諸國は、文化低級なる露國人等の宣傳に陥らざる事は勿論、反つて反動的現象さへ現出する觀を呈した、のみならず一昨年英國外相「チェンバレン」は西歐諸國を説き歐洲諸國の保障條約の成立に奔走し、遂に一昨年来本條約は「ロカルノ」條約となつて成立するに至つた、爲に歐洲諸

國間の外交關係に一安定を來し、常に外交の不安定に乘じ赤化政策を試みんとする「サ」聯邦に大打撃を與へたのみならず、進んでは獨逸を加ふる西歐諸國の對露戰線を構成するにあらずやと「サ」聯邦を危惧せしめた。

「サ」聯邦は本保障條約の妨害に必死の努力を試み、外相「チチエリン」の如きは自ら獨逸、波蘭等に乗出し劃策する處があつたが遂に不成功に終つた。

本保障條約の主働者は英國にして之がため英露の關係は爾來益々惡化し、偶々一昨年五月英國の炭坑罷業起るや「サ」聯邦は之が擴大に努めたる爲尙以上惡化し、爾來西歐と云はず極東と云はず、殆んど全部が英露葛藤史の觀を呈するに至つた。

茲に於て英國は波蘭を中心として「サ」聯邦の西境を圍る沿波諸國（ラトビア、エストニア、リトワ）及羅馬尼等を合せしめ對露封鎖同盟を作り、「サ」聯邦は之に對し切崩しに必死の有様である、其切崩し策としては之等各國の各々に非侵略條約を締結し條約國は互に攻撃せず一方が第三國と交戦する場合他方は中立を持するにある、本條約の締結は一二國

家に成立したが要するに此方面は「サ」聯邦「外交の受身であつて、英國外交に壓倒せられつゝあるの觀がある。

土耳其、波斯、亞富汗方面に對しても同様各國別に非侵略條約の締結に腐心し土耳其及亞富汗には既に其成立を見た、唯此方面即ち回教國に對する「サ」聯邦の外交は形式は非侵略條約締結にあるが一種の特徴を以てゐる、それは回教徒國たる土耳其、波斯、亞富汗、印度等に依る亞細亞聯盟を作り、次ては革命進行の途中にある支那を之に加盟せしめ、一大勞農式亞細亞聯盟を作り、國際聯盟若くは西歐諸國に對抗するにある。之が證據としては佛國の下院議員シヤリ・リセの「歐洲の滅亡」なる論文に於て「サ」聯邦は東洋民族をして全能力を盡して歐洲に壓起せしめんとし、之がため回教國を使喚せんとして居る、彼等回教國は「マホメット」のために立つにあらずして「レニン」を擁して立つものであるとの論說に對し、第三「インタナショナル」首領「ジノビエフ」は之に答へて歐洲諸國は所謂革命と名付けらるゝ天災的厄難に對し本能的悲嘆に惱んでゐる、此悲嘆は歴史の事實として立證

せられるであらうと云つて居る。明に「ジノビエフ」は論者の悲嘆を現出せしむる意圖を有して居る、尙支那の革命を嚮導印度、馬來半島、印度其他の回教國に及すの必要に就ては第三「インターナショナル」及露國共產黨大會に於て「サ」聯邦爲政者が常に言明してゐる處である。

支那に對する赤化

西歐方面に於て赤化政策を封鎖せられた「サ」聯邦としては當然他の方面に自己の本能的赤化政策を施すに至るべきは當然である支那の赤化は之れである又一面よりすれば西歐方面に於ける英國外交に對する復仇的意味も有してゐる。

「サ」聯邦は革命直後直に諸外國に對し債務を放棄すると同時に露國帝政時代締結せられたる諸條約を全部放棄した。支那に對する舊條約も放棄せられた事は勿論である。又御丁寧にも北滿に於ける東支鐵道の權利の如きも明に放棄すべきを重ねて明にした。然るに東

支鐵道は後貝加爾及浦鹽方面を聯絡すべき重要な鐵道にして且其收益も相當多額に上り又本鐵道方面を領有する事は將來支那赤化の根源たらしむるに便利である爲に、常に之が奪還を試み遂に大正十三年張作霖が吳佩孚と南方に於て争ひ北方を顧るの迫なきに乗じ奉露協定に依り其の經營權を奪取した、又外蒙は一白黨將軍の外蒙に進入せるに對し之を討伐の名を以つて赤兵を外蒙に入れ自己に都合よき政權を樹立し爾來兵を撤せず遂に外蒙を獨立せしめ現在に於ては殆んど外蒙は「サ」聯邦の一聯邦の状態に至らしめて居る。

唯自己のため實益少き帝政時代の治外法權、租界の權利等は支那に其儘放棄した、「サ」聯邦が主義に於て各種利權を放棄せざるべからず、且つ放棄の聲明をなせしにも係らず東支鐵道及外蒙を奪取し諸外國に對する債務は依然放棄して居るのである、「サ」聯邦が赤色帝國主義なりと資本主義國家より攻撃せらるゝは無理からぬ事で、此の點に於ても主義と現實との間に多大の相違を來し「サ」聯邦は赤色帝國主義の反駁に之れ努めつゝあるの模様である。

右の如く東支鐵道及外蒙奪取の傍ら支那中原の赤化にも多大の努力を試みた。抑も支那赤化の目的は之を赤化して彼の外交方針を貫徹するにあるが、差當りの目的は支那赤化の反對者にして東支鐵道方面に對する「サ」聯邦の企圖に對する妨害者たる張作霖の撲滅及諸外國資本主義國家の支那よりの排除である、諸外國が支那に勢力を有する以上、支那の赤化は困難であるからである、張作霖撲滅の爲には馮玉祥に多數の武器、彈藥、資金を供給して之れを攻撃せしめ或は郭松齡を張作霖に裏切らしむる等、各種の方法を試みたが遂に失敗に終つた。一方支那民衆赤化のためには或は北京其他の大學の教授或は學生を買收煽動し或は上海方面の勞働者に赤化宣傳を試み又一面國民黨を利用し之等の赤化に任せしめた。

國民黨の主義とする處は三民主義にして此三民主義中には諸外國の排斥或は舊軍閥打破等の思想は充分にあるが、共產主義的思想は無い、又革命實行の手段としても共產主義の如く暴的手段に依る事は認めて居らぬ、そこで國民黨を左傾せしむべく主義を同じくせざ

る共產黨を無理やりに國民黨に加入せしめた、此加入に依りて國民黨も益々左傾し相當の目的を達し、「サ」聯邦の思ふ壺にはまつたが、元々主義を全然同じうせざる兩者の合作は「サ」聯邦のため大なる禍根を残した。此事に就ては後に於て説明する事にする、要するに「サ」聯邦は自己武力の代表者たる軍閥を助くる傍ら一方國民黨なる思想團體に據り兩者相俟つて其の赤化の目的を達成せんとしたが、之れに依り相當の効果は勿論齎したが、兩者緊密に同心一體となつて動く迄には至らなかつた。

廣東軍の思想戰

革命遂行のために必要なる二要素は武力と思想團體が密接に相結合し其間に何等の錯誤も誤解もなく革命に向つて突進するにある、此見地に基き「サ」聯邦の着目せしは廣東政府である。

廣東政府は國民黨の建設せしものにして國民黨の意思の如く活動し、且つ其下に武力を

擁して居る、此國民黨、廣東政府、廣東軍が協力同心革命に向つて進むに於ては、支那の革命も強ち不可能でない、茲に於て「サ」聯邦は廣東政府及廣東軍の成立に偉大なる努力を拂ひ武器、資金、人員の援助を惜まらず遂に北伐前進をなさしめた、而して廣東軍は昨年六月廣東省の韶關に兵力を集中せし以來本年三月下旬に至る短時日に長江以南支那の半部を攻略し舊軍閥をして異常なる恐怖を感じしむるに至つた、之一に「サ」聯邦が數年來支那に培養せし赤化的思想の結晶と云はねばならぬ、而して南軍の北伐を身事に殆んど軍事的行動に出づる事なく、思想戦に於て北方舊軍閥を互填せしめたる觀を呈して居る。即ち南軍の北進するや舊軍閥の打破、及帝國主義諸外國の支那よりの驅逐を名とし舊軍閥の如く自己の私利に依り戦ふにあらざる所以を明にして戦争の目的に依つて精神的に軍隊の結束を堅くし又軍隊には政治部の組織を設け、政治部員には豫め露國人教官に依り教育せられたる革命心旺盛なるものを以つて之に充て、之等政治部員は各級指揮官に配屬し之れを軍隊指揮官に隸屬せしめず、直接國民黨に隸屬せしめ、之等政治部員をして兵卒の精神教育を

擔當せしめ而して此精神教育たるや帝國主義の打破、舊軍閥の打倒、被壓迫民族の解放等純然たる革命思想の鼓吹にして、之を以て思想上に於て士卒の精神を統一し又之等政治部員により各級指揮官の反革命行動を監視し以つて支那軍一般に流行する裏切を防壓し又之に依り組織上に於て軍隊の統一を計り又國民一般にも軍の目的と同様なる排外、舊軍閥打破、反帝國主義等の宣傳をなし以つて國民の同情を南軍に導き又便衣隊を豫め敵地に進入せしめ各種の宣傳陰謀に任せしめ、現に南軍上海南方に接近するや此便衣隊の陰謀に依り上海には南軍歡迎の總同盟罷業を決行せしめ以つて南軍の北進を容易にし又一地方を占領するや直に糾察隊を編成し其地に於ける反革命を防壓し又敵軍兵卒内に赤化宣傳を行ひ其士卒をして南軍の戦争目的に共鳴せしめ次て其指揮官を買収し之を裏切らしむる等悉く思想戦ならざるはない。

此思想戦の地盤となすものは工會であつて、多年「サ」聯邦が苦心の結果作成せるものである、工會は各都市は勿論各省至る處に組織せられ工會に集るものは左傾無智の労働者に

して、「サ」聯邦の巧言に依り意の如く暴擧を敢てする、諸外國との衝突も殆んど此工會の連中に依り惹起せられて居る。以上の組織及行動を見るに全然「サ」聯邦の模倣にして、政治部員制度は「サ」聯邦のコミツサールの制度に、工會は職業組合の制度に、糾察隊はダベウの制度に、又思想戦一點張は「サ」聯邦の革命戦と同様である、ポロヂンが指導しつゝある以上斯くなる事は當然である。

以上の如く放漫なる革命的思想はあらゆる處に瀰漫し浸潤し止まる處を知らぬ有様である、之は明に「サ」聯邦の所爲にして又「サ」聯邦の成功である之南京事件其の他の不祥事件を生じた所以である（筆者は南京事件の真相に就ては邦家の受けたる屈辱があまりに言語に絶し而のみならず口に出し得ない迄の凌辱がある、ので茲に紙上に記録を殘す事を欲せぬ事を讀者は諒とせられ度し。）

以上工會の發達、下層民に對する革命心の横溢は支那の社會に於ける勢力が下方に移つた事になる、從來の如く諸外國が民衆を念慮に置く事なく一軍閥又は一權力者を壓迫する

事に依り外交問題解決を告ぐる事は出来なくなつた、之れ「サ」聯邦の一大成功と見ねばならぬ、社會の勢力が下層に移つた事が「サ」聯邦に如何なる關係があるかを見るに、之れは單純に考ふれば社會に革命思想が充滿した事で革命の前途に光輝を添へるものであるは明であるが此外、外交問題にも多大の影響を及し諸外國は一事件を解決するに單に一權力者との談合に依つて強壓的に決する事は出来なくなつた、常に支那民衆の反影を考慮し、民衆の好感を得る事も必要である、此點が諸外國が常に對支外交に於て好い顔をせんとして一國が排斥せらるゝ場合當然其の後自己に及ぶべきを知りつゝ協同事をなし得ない理である、之が亦「サ」聯邦のツケ目とする處で此間を利用して諸外國の對支歩調を亂し、合せて支那革命に徹底的打撃を受けしめぬ様に苦心して居る、而し「サ」聯邦は諸外國の支那に對する壓迫、之に對する支那民衆の沸騰、引て起る無秩序が支那革命化の必要條件であるから此状態に至らしめる爲には諸外國が協同一致して支那に當り得ない程度に於て最大限の侮辱を諸外國に與ふるに努めつゝあるは明である。

北京サウエート大使館の家宅搜索

以上の如き革命的思想、大衆運動は單に南方のみならず、北方張作霖治下にも瀰漫し南方軍の便衣隊の如きも絃々北方に浸入し又南方軍の宣傳支部は浦鹽に設置せられ北滿方面を攪亂せんと試み北京、天津、青島、奉天、ハルビン方面には同盟罷業さへ勃發せんとするの情勢を呈するに至つた、之を放任すれば北方の互壞を招來すべきは明である、而して此原動力とも云ふべきは廣東軍にあらずして其本據は「サ」聯邦政府にある、「サ」聯邦政府の代表者たる北京「サ」聯邦大使館にある此本據を突くにあらざれば此種運動の終熄は百年河清を待つに等しい、茲に於て張作霖は豫め密に北京外交團に、公使館區域内の「サ」聯邦陰謀の策源地たる、極東銀行支店及東支鐵道公署の搜索の了解を求め四月六日奉天軍々警を以つて突如之を包圍し之が家宅搜索を行ひ此際「サ」聯邦大使館附武官室迄搜索の手を延し李大劍以下支那人共產黨員數十名及「サ」聯邦大使館員十數名を捕縛し多數の證據書類等

を押収した、茲に於て「サ」聯邦は同九日外務大臣代理「リトウイノフ」の名を以つて抗議を支那政府に提出し、大使館附武官室、大使館員及通商代表部員の家屋より支那軍隊の撤退、捕縛せし大使館員其他の釋放、押収書類等の返還を要求し右要求の認容迄代理大使チヨールヌイフを引揚げ領事は引揚げず殘置すべきを通牒し、國交を斷絶せるが如く粧ひ而も斷絶せず又「サ」聯邦は充分なる報復手段を探るに充分なる力を有するも、本事件は某々帝國主義者が支那を使曠して爲さしめしものにして之に依り「サ」聯邦を引出し世界戦争に導かんとするものにして「サ」聯邦は斯くの如き計略に乗るものにあらずと述べ、又他の帝國主義國の如く直に武力干渉を試むるものにあらずと説明してゐる。

右の如く「サ」聯邦が頗る柔弱なる態度に出でしは若し對支強硬政策に出で萬一諸外國と衝突を生ずる場合は困窮せる自國の存立迄に影響を及ぼし又國交を斷絶せば張作霖に依り東支鐵道を奪取せられ或は「サ」聯邦領事其他を追放せられ宣傳の根據を全く失ふに至るべきを恐れたからである、要するに柔弱政策に出でざるべからざる理由は一に自國の疲弊が

最大の原因をなしてゐる、この軟弱なる態度に出づる傍ら「サ」聯邦は義勇兵二千を後貝加爾方面に輸送し又後貝加爾及浦鹽方面に於て支那人義勇兵を編成し之が一部を外蒙方面に進ませしめつゝある此目的が奈邊にあるや明かならざるも張作霖が東支を奪取せんとするに對しての豫防的脅威か或は奪取せし場合等かの處置に出でんとするものなるか或は進んで東支沿線の攪亂を企てんとするものなるやは、今の處不明である。

北京「サ」聯邦大使館搜索事件は多大なる影響を及し、次で天津の「サ」聯邦通商代表廳の搜索、上海「サ」聯邦領事館の包圍等を誘起し、又英京ロンドンに於ても最近通商代表の家宅搜索事件を惹起したのみならず、南支方面に於ては蔣介石の共產黨彈壓に一種のヒントを與へた感がある。

南方に於ける共產黨に對する彈壓

「サ」聯邦は國民黨を左傾せしめ之に共產黨を混入せしめたるは既に述べた處である、然

るに主義を異にする兩黨を混入せしめたる處に既に將來の禍根は存在してゐた、殊に兩者の合作當時に於て異論百出せしを以ても明である、果せる哉爾來國民黨内には、共產黨に共鳴する左傾派と純國民黨(三民主義)に共鳴する右傾派とは常に相融和し同心一體たる事を得なかつた。然れ共、將來の支那の革命てふ大目的達成のため兩者は相一致し廣東軍の長江以南の占領を成さしめた、然るに一度長江以南を占領するや左傾右傾兩者の紛糾は露骨となり左傾派の盲動は上海其他を極度に不秩序に陥れ收拾すべくもなく又左傾派の據頭は純國民黨の勢力を奪ふにあらざるやの形勢を示したるを以て廣東軍司令官蔣介石は遂に共產黨の彈壓を決心し、多數の共產黨員を捕縛し死刑に處し、左傾工會を解散し、舊廣東政府たる武漢政府に對抗して、南京に純國民黨に依る政權を樹立し兩者相對峙するに至り左傾派たる武漢政府の旗色は漸次不利に傾くに至つた。

今後蔣介石が大眾の胸裡深く浸潤せる共產黨の左傾思想を剪除し又武漢政府を徹底的に撲滅し得べきや、或は撲滅すべき意志あるや否やは實に興味ある問題として残されてゐ

る。此共產派彈壓事件より考ふるに「サ」聯邦が主義を異にする國民黨に共產黨を便宜上加
 入せしめたる事に矛盾がある、共產黨が主義に忠實ならずして國民黨のマスクに依り前進
 せんとせしに禍根を残してゐる。

既に「サ」聯邦高級外交官中にも對支政策に於て意見の相違を來してゐる、外務大臣チ
 エリンは現在の對支赤化政策を以つて適當なる政策なりと是認し居るに反し外務次官リ
 ウイノフは之に依り資本主義國家に悪感情を與へ引ては「サ」聯邦の國際信用を失ふのみな
 らず支那の赤化は反つて支那より利用せらるゝものにして、何等利益なしと主張してゐる
 故にも外交爲政者の悩みが窺はれる。

對日本態度

支那問題に關連し「サ」聯邦の日本に對する態度は實に好感的で一意日本の意を迎へんと
 之努めてゐる、但し之は表面のみであつて内心は此表面的親善態度に依り支那問題に對し

日英協調して、事に當る事を避けしめんとする所存である、支那に於ては現在主として排
 英行動に出でつゝあるも排英の目的を達成せば次で排日に来るべきは理の當然である、諸
 外國を支那より排斥する事を主義とする以上、英國も日本も異る理由ない、現在親日的
 態度に出で居るのは一の手段に通ぎぬ、此明白なる理由存在するにも係らず「サ」聯邦の親
 善的態度に眩惑せられつゝあるは吾人の甚だ奇怪とする處にして或は「サ」聯邦の傀儡にあ
 らざるやを疑はずに居られぬ、既に大使館押收書類中の一節にも排外を主義とするにも係
 らず排英のみを斷行し排日を行はざるは支那人に一種の疑念を起さしむるを以て此點に就
 ては充分注意すべきであると述べて居る程である、此件に就ても主義と現實との矛盾を感
 ぜずには居られない。

「サ」聯邦が日本に對し親善的態度に出でんとし且日本の氣息を常に窺ひつゝあるの状は
 實に憐憫に堪へぬ程である、北京大使館搜索事件に付て「サ」聯邦が對支抗議を提出するや
 駐日勞農大使は直に我外務大臣に武力的解決をなすべき意圖なきを殊更に説明し、日本の

感情を刺戟せざるに努め、又抗議中大使を引揚げたるに對し我が聯合通信の露支國交斷絶なりやの間に對し露支國交斷絶にあらざる旨を電報せしが如き之である。然し裏面に於て日本に對し好意を有せず、機會ある毎に赤化の魔手を延さんとしつゝあるは一昨年第三「インターナショナル」の回章にも明である。即ち日本赤化方策とし述べて曰く、

日本に於ては資本家は適當に労働者の要求を容れつゝ労働者の革命的闘志を癱痺せしむるを以て如斯き國に於ては赤化のため共產主義を高唱する事なく徐々に赤化を進め労働者をして資本家が甘受し得ない迄の要求を提出せしめ勞資の協調を破壊する必要がある、と。

露西亞の支那赤化方針

サウエート聯邦の共產黨と、第三インターナショナルとは、支那の赤化には、自國の事のやうに懸命になつて劃策し、高價な犠牲を拂つてゐる。

左記は全露共產黨中央委員會（本年四月中下旬）と、第三インターナショナルの執行委員會定例總會（本年五月下旬）とで、支那革命問題に關し、決議してこれを新聞紙上に公表したものである。この兩者の内容によつて、彼等の支那革命運動觀と、革命運動の進展を計るべく、如何に苦心してゐるかを推知し得べく、又支那の形勢に注意してゐられる、我が國朝野識者の必讀の資料たるを信ずる。

全露共產黨中央委員會の

支那赤化宣傳員心得書

第一章 支那革命の前途

支那革命の情勢を一目瞭然たらしむべく、左にその重要な事實を列記す。

- 一、支那は半殖民地的狀態にある國家であつて、その財政經濟は、帝國主義者の支配を受けてゐる
- 二、封建制度的壓迫は、帝國主義者および官僚主義者の壓迫のため、一層甚だしく行はれてゐる
- 三、國民主義的支那ブルジョア（譯者註右翼國民黨を指す）は、帝國主義者の掣肘を受け、政治的勢力薄弱にして、革命運動の擴大を怖れつつある

四、プロレタリアの革命團體は、著しく増加し、その労働民衆間における勢力は次第に擴張の傾向にある

五、支那の隣國に、プロレタリア獨裁國家が嚴存してゐる

以上の情勢により、支那革命の本質の如何なるものを察知し得らるべく、ゆゑに今後支那革命の進むべき道は

- 一、國民主義的ブルジョアが、プロレタリアを壓倒し、帝國主義と妥協提携して、資本主義的支配を鞏固ならしめ、もつて革命運動を閉塞せしめんとする勢を生ずる乎、若くば
- 二、プロレタリアが、國民主義的ブルジョアを斥け、霸權を握り、もつて國民主義的ブルジョアの抵抗力を完全に薄弱ならしめんがために、都會、村落の労働者を糾合しブルジョア革命の完全なる勝利者となり、革命政府革命法律を設けて、ブルジョア革命をして、社會主義革命の軌道に移らしむるに至るべき乎

右二つの内、何れかの一つに向つて展開するであらう。本來からいふと

- (一) 世界の資本主義は既にその恐慌時代に入つてゐること
 (二) 隣國のサウエート露西亞革命の經驗を、支那のプロレタリアが應用し得ること
 の二點から、支那革命は前記の第二の道程を進むべき充分の可能性を持つてゐるのである。

しかしながら、一面帝國主義者は、今や支那革命にたいし、聯合して壓迫を加ふるのに都合よき條件を備へてゐる、すなはち、我が十月革命前に於けるが如き、帝國主義者間相互の利害不一致による確執も、戰爭勃發の危惧もなく従つて帝國主義諸國の國力を薄弱ならしめるやうな、重大問題が現在してゐないから、支那革命は、我が露西亞革命が内亂時代に、變節漢や反叛者に苦しめられた以上の困難に遭遇するであらう。

されば、前記の第一鬭争と、第二鬭争との關係は、支那革命上の重大問題であるから、共產黨員は第二鬭争のため勝利の獲得を期して、奮闘せねばならぬ。

第二章 支那革命の第一過程

支那革命の第一過程すなはち、北進開始の當初……國民軍が揚子江に接近せし時代……には、勞農民の根強き力は未だ充分に培はれてゐなかつたが、しかも連戰連勝し、國民主義ブルジョアは革命運動に歩調を合はせて行動したのであつた。しかし之は國民主義ブルジョアと、革命プロレタリアとが妥協したわけではなかつた。國民主義ブルジョアは革命運動に曳きづられながらも、進んで來たことは、彼等が革命そのものゝ發展を制限し、ただ主として自己の勢力範圍を擴大せんがために、利用したにすぎない。

國民黨内部における左右兩翼の暗闘は、當時における兩者の利害の不一致を證明する好例であつた。昨年、蔣介石が、國民黨内から共產黨を排斥しやうとしたことは、國民ブルジョアが革命に對する最初の行動として特筆すべきものである。當時わが全露共產黨中央委員會は

(一)(一) 國民黨幹部中の共產黨員の居据はりを必要と認め、また
 國民黨から右翼分子を去らしめるか、或は放逐方針を講ずる必要ありと認め
 よつて革命運動の發展策として

- (一)(一)(一)(一) 國民黨および國民政府部内の左翼派と共產黨との提議
 國民黨の統一ならびに右傾派の除名、左遷
 國民黨の黨規による右翼派の束縛

もし右翼派が忠實に黨規を遵守するならば、彼等の連絡および經驗を利用し、もし
 黨規にそむき、革命の利益を無視するならば、これを放逐すべき

方針を採つたのである。その後の事實は、この方針の妥當であつたことを立證した。農民
 運動が發達して、農民組合の組織、農民委員會の開設となり、都會にはストライキが傳播
 し、國民軍は破竹の勢をもつて、帝國主義者の陸海軍が戒嚴令を施してゐる上海に迫つた
 如きその例である。また今年二月右翼派が國民黨を瓦解せしめ、南昌に新政府を樹立しや

うとして、武漢の革命國民黨から一撃の下に打破された理由もまた説明することが出來
 る。と同時に、その方面において、國民主義的ブルジョアが如何に革命勢力の擡頭を恐
 れ、かつ革命に反對してゐるかがよく判る。換言すれば、如何に階級意識が、プロレタリ
 ヤ間に高まつて來たかを、如實に看取することが出来る。こゝに於いて、全露共產黨中央
 委員會は今年三月

一、現時、支那革命は階級勢力の擡頭と、帝國主義國軍隊の集合のために、危険時代に
 入つたから、今後の勝利獲得のためには、一層民衆運動を盛んに起さねばならぬ
 二、勞農民を武裝せしめること、および地方農民委員會を武裝自衛團化せしめる必要が
 ある

三、共產黨は、國民黨の右翼分子の變節行爲、反逆行爲を社會に發表し、右翼分子を排
 斥するため、國民黨および支那共產黨が中心となつて、民衆運動を起すこと
 を主張したのである。想ふに、今後革命運動の發展に伴ひ、外國軍隊の壓迫が一層強くな

つて来ると、國民ブルジョアが反革命に走るべきは疑ひなきところ、また國民軍が上海を占領し、上海労働者が罷工を起せば、革命を壓迫せんとする帝國主義者は、自ら一致して共同戦線を張るべきは當然のことで、事實またかくの如くなつたのである。

南京砲撃は支那闘争團體に對する試金石であつた。南京を砲撃し最後の通牒を發した帝國主義者は、革命主義壓迫のため、國民主義ブルジョアに援助を求め、蔣介石は恰かも帝國主義者の招きに應ぜしが如くに、國民主義ブルジョアを率ひて、勞農民の壓迫を始めたのである。

第三章 支那革命の第二過程

蔣介石の演じた政變は

- (一) 國民主義ブルジョアが、革命運動から分離したこと
- (二) 國民主義反革命本部が組織されたこと

(三) 右翼派と帝國主義者とが、支那革命征服事業の取引を開始したこと

等を意味するものであり、また今後南支には色彩の異つた二つの政府と、二つの陸軍が存在すべく、武漢は革命の中心、南京は反革命の中心となつたことを意味する。

蔣介石の政變によつて、革命は第二期に進んだ、すなはち一般國民の聯合的革命運動から、轉じて、勞農民大衆の革命および、農業革命（反帝國主義、反地主主義、反蔣介石）に移つたのである。換言すれば、革命の味方と、敵との闘争となり

- (一) 武漢の國民黨は、軍國主義と帝國主義を排斥するところの、プロレタリア農民の革命命民主獨裁機關と化し

- (二) 反革命の蔣介石は勞農民を振り捨て、南京において、帝國主義者と接近し、つひに軍國主義者の運動を解決するであらう

斯の如く判然と分かれた以上、國民黨團結とか利用とかの必要は全くなくなつたから、方針を一變し、國民黨内の右傾派にたいし斷然たる態度を執り、左翼派と共產黨員とが提

携し、黨内を堅め、實権を掌握せねばならぬ。

ところが、現在の状態では、共産黨と、國民黨内左翼派との團結でさへも、特別の努力を必要とすることを忘れてはならぬ、しかも之を實現せしめねば、革命の勝利は到底望まれない。今後革命運動の中心勢力たるべきものは革命主義の國民黨である。勞農運動の擴大と、民衆機關の強固を計り、進んで農民委員會、職業組合その他革命的民衆機關、乃ち將來サウエートの機關たらしむべき、機關の準備に努めねばならぬ。革命の勝利は百萬民衆の革命意識、主として武装せる革命的勞農民の團結の力に俟たねばならぬ。

故に革命主義的國民黨と、爭鬭に従事せる共産黨とは、從來よりも一層プロレタリアの霸權維持に必要な、條件の確保に努めるのが何より肝要である。

第四章 反對派の過失

我が全露共産黨内の反對派は根本的に對支政策を誤り、全然支那革命の特性を了解せ

ず、また今日まで、支那革命の經來りし道程ならびに、支那の國際關係に通ぜざる結果、大なる謬見に陥つたのである。反對派は我が十月革命が進んだと同様に、支那革命が急速の進展をなさんことを要求し、上海の勞働者が、帝國主義者にたいし、何故もつと斷乎たる態度に出でなかつたかと不満を抱いてゐるが、一九一七年頃と今の國際關係とは事情が違ふから、支那革命が一方躍進をすることが出来ないことを理解しないからである。

反對派は直ちに、今の支那に勞農兵士代表評議會を組織せよと主張してゐるが、まだ革命の機運の熟してゐない今日、評議會を設ける必要はない。評議會は無駄話するため設けるのでない。現政府を倒ぼすことを協議するためのものであるから、今日はまだその時期ではない。今の武漢政府の勢力範圍内で評議會を組織せよとは何事であるか、武漢政府と戦へといふのか、また革命民國政府を排斥して新政府を起すために組織せよといふのか、さつぱり判らない。こんなことは、畢竟反對派が支那革命の過程を少しも理解せないため、反つて敵を利するが如きことを言ふのである。

なほ反對派は、國民黨と共產黨を分離せしめろと主張してゐるが、それでなくとも帝國主義者は國民黨から左傾分子を放逐すべく、躍起となつてゐる際、分離によつて彼等を利することこそあれ、我等のために何の利益があらうか、かやうな方針では共產黨の勢力を殺ぎ、國民黨分裂の因となり、また國民黨の左翼分子を掃蕩し、革命戦を思ひ止まらしめ、革命の敵を喜ばしめるものである、つまり帝國主義、軍國主義者の野望を我等が達成せしめてやるに等しい、さやうな反對派の對支政策には、我等は耳を傾けることは出来な

第三インターナショナルの

支那赤化方針決議文

世界的プロレタリア革命運動の、直接指導中心機關たる、第三インターナショナルの執行委員會定例總會(自五月十八日 至五月三十日)は、支那問題に對する廣汎、長文の決議書を發表(共

産黨機關紙五月三十一日紙上)した。本文は

- 第一、支那革命の意義
- 第二、國民革命運動の危機と支那状態の一變
- 第三、支那革命の部分的敗北と、反革命主要勢力
- 第四、勞農民衆の組織化と支那共產黨の重要使命
- 第五、共產黨と國民黨
- 第六、武漢政府の主權、陸軍及び、支那共產黨問題
- 第七、支那革命に對する根本政策
- 第八、第三インターナショナルと支那革命

の各章に區別し、支那革命にたいする詳細なる批判と、黨略を指示したるものである。左記はその大要であるが、前編、全露共產黨の綱領と兩々對比して貰ひたい。

最近支那革命の發展に徴し、第三インターナショナルの、支那革命に對して、執つて來た方針手段の正當にして、かつ支那革命の國際的役割についてのレニンの豫言が、着々とし

て的中しつゝあることを喜ぶものである。

支那革命は、國際帝國主義者のなしつゝある反革命運動に對抗して、漸次その勢力を擴大して來たので、外國軍隊は支那に集中し、日本は既に事實上、滿洲を占領し、英米は支那の各要港を封鎖し、反勞農運動も従つて擴大されんとする。此の際に當り我が第三インターナショナル執行委員會は、各國の分會と共に、支那革命を援助し、支那の内政に干渉するものを極力排除し、同時に社會民主黨や、第二インターナショナルの政策にたいする、積極的排斥運動を起さんとするものである。蔣介石の政變後、ブルジョアは單一國民黨革命戦線に龜裂を生ぜしめ得たので、支那の状態は幾分變化を生じて來た。よつて我が第三インターナショナルの對支政策も、この新形勢に順應して、改變せねばならぬ。蔣介石や、國民黨の右傾分子とは絶対に妥協を夢みてはならぬ。現在の支那は

第一、外國帝國主義と支那軍閥の勢力

第二、支那ブルジョアの勢力

第三、國民革命（勞農、職工、小ブルジョア）の勢力

の三つの勢力に區別することができる。蔣介石の政變によつて、支那革命は部分的に收北した、がこれを以て支那革命全體の失敗だと見做してはならぬ。もし外國軍隊の妨害がなかつたならば、蔣介石の軍隊の如きは一撃の下に打ち破ることができたのである。これ故に第三インターナショナルは一層民衆の間に反帝國主義の煽動を行はんことを望むのである。

又たとへ、支那革命が困難に遭遇したとはいへ、武漢政府および、左翼國民黨は都市村落の小ブルジョア民衆と、プロレタリア民衆との團結に努力し、着々民衆の革命化の成績を上げてゐるから、第三インターナショナルは、勞農民衆の組織化に努力しなければならぬ。それがためには村落においては

「大地主の土地所有權無効」 「地代廢止」 「小作人との契約破棄」 「税金の低減」 「富豪に對する重稅要求」

を標語として農民革命運動を起さねばならぬ。しかして農業革命を行なふに當つても、共

産黨員自らこれを行ひ、決して農民側の奮起如何を當てにしないで、卒先審問するを要す。都會においては

「労働者の賃銀増加」「工場における職工の権利擴張」「八時間労働制」「労働者の團結權要求」をなさしめ、さらに進んで労働者の武装一揆を起さしめねばならぬ。つぎに都會および、村落において

一、國民黨員の養生

一、職業組合およびストライキ委員の組織

一、工場委員会、便衣隊、農民委員会の組織

を實行し、國民黨入黨の勧誘を怠つてはならぬ。

國民黨と共產黨との相互關係としては、國民黨をして、革命社會民主機關たらしめるやうに指導し、支那共產黨員は漸次國民黨の内部に喰ひ込む方針を採り、一面農民革命に全力を傾注せねばならぬ。

武漢政府については、同政府はまだプロレタリア獨裁政治を行ふ政府でないが、國民黨の左翼分子の政府であるから、共產黨員は武漢政府の事業に積極的に參與し、漸次部内に勢力を扶植せねばならぬ。今日はまだ支那に労働兵士評議會を組織すべき時期ではない、ただ陸軍を改造し、忠實なる革命兵士より成る軍隊となし労働諸團體と密接な關係を保たねばならぬ。そして共產黨員がその幹部を堅め、完全なる革命常備軍を編制することば何よりの急務である。

支那の一般的形勢は、共產黨にたいして左の要求をなしてゐる。

一、革命軍の北進にたいする共產黨員の援助

一、武漢政府の勢力範圍内における農業革命の誘起と、蒋介石部隊の攪亂

共產黨員は全力を労働および、小ブルジョア戦線の擴張に注がねばならぬ云々。

外蒙古の近況

……全く、勞農露西亞の屬國化する……

外蒙古の首府、庫倫……今ではウラン・バートル・ホト即ち「赤色武士の都」と露西亞流に改稱されてゐる……から最近歸哈した一支那商人の實地見聞談

現在の外蒙古は、まづたく赤露風に變つてしまつた。いろ／＼の制度も社會主義流、露西亞流である。軍隊は服装も、教練の方法も、軍規の内容も、赤軍に似せてゐるし、武器は悉く露西亞物だし、軍事教官は露西亞人と來てゐるから、赤軍と何等變つたところがない。昔の外蒙と違つて今ではもう宛然露西亞の屬國で、名實ともに支那の領土ではなくなつた。

庫倫には日本商人一名、英國商人一名と、少しばかりの支那人がゐる外は、蒙古人と露西亞人のみであるが、官廳の樞要部は殆んど露西亞人であるから、蒙古人でも何事によら

ず露西亞人の意見に聽従せねば實行できないほど主客轉倒してゐる。元來蒙古人は溫和樸實まことに愛すべき民族性を持つてゐたのであるが、赤露の魔手が延びて來て、過激思想を鼓吹されて以來、その宣傳に煽惑されて、固有の善良、溫順の美風を失ひ、非常に偏狹な、また驕慢なふうに一變して來た。

外蒙が露西亞風の制度、組織を採用したのはよいが、外蒙の實情に適せない政務機關や、不相應に多い軍隊の維持のため、勢ひ租税が過重になり、一般國民の生計は一層苦難になつた、つまり舊時代よりも非常の悪政に虐げられるやうになつたので怨嗟の聲が高いが、それでもまだ迷ひの夢の醒めない輩が多い。

此の頃では外蒙に來る旅行者はいづれも嚴重な検査を受ける、そして到る處に看視所があつて、何處でも共產黨員の命令を聽かねばならぬ。外國貿易は無論露西亞人が實權を握つてゐる。

露領後貝加爾のウエルフネウチンスクと庫倫との間には、一週二三回づつ、露西亞の飛

行機が往復してゐるが、最近また二臺の飛行機を増加した。此の定期飛行は政治上、軍事上の要便に充つるのが目的であるが、露西亞の役人や、軍人など緊急の旅行の際はいつもこの飛行機を利用してゐる云々。

また別な支那側の發表によると、外蒙は活佛時代から、新政府に至るまでに十種、三千二百萬留、その後今日までに五種、四千四百萬留合計十五種、七千六百萬留も露西亞から借款してゐる。その借款の擔保として外蒙古内の土地使用權、鐵道敷設權、鑛山採掘權を始め、およそ外蒙古の主なる利權はほとんど擧げて、莫斯科政府のために壟斷されてしまつたと。

▲對支、不干涉會の決議

露西亞には先年から對支不干涉會といふ團體がある。つまり列國が支那の内政に干渉するのを阻止するのが目的である。もつともサウエート聯邦がボロヂン以下數十名の共產黨員や、軍人を送り、軍資金や、武器を南方に供給して、共產革命運動を必死となつて援助するのは、一向差し支へないといふのであらう。

此の對支不干涉會の主催で、今年四月十九日莫斯科で會合が催ふされたとき、次のやうな決議文を可決した。かやうな決議文は今まで何十、何百度もあつて、敢て奇異とするに足らぬが、参考として引用する。

「支那解放運動の轉換期に際し、われらは支那革命勞働者および、農民に滿腔の敬意と同情を表しつゝ次のごとく告げんとす。われらは諸君の味方である。諸君の勝利はわれの勝利である。

蒋介石の反革命的行動は、支那ブルジョア革命の汚辱であるから、勞農民の團結によつて蒋介石一派を一掃せねばならぬ。

プロレタリア農民と、すべての勞働者の結合によつて、支那革命の終局の勝利を獲、外國の干渉を排除しうべく、而して後、勞働階級農民及び、都會無産者の獨裁政治は實現するのである。

支那國民解放運動萬歳、支那共產黨萬歳。

赤い外蒙!!

緒言

廣漠無限の廣野、人煙稀にして、住民は一定の住居を有せず牛、馬、羊、山羊を追ひ隨所に遊牧し全然土地に對する所有觀念を有せざる蒙古人、有り餘る家畜より生ずる乳を主食とし何等生活の資に窮する事なく、未だ世界の文化に浴せず、喫茶、飲酒、惰眠を貪り醉生夢死の境に彷徨しつゝある蒙古人、自己等は九尺二間にも過ぎぬ陋屋蒙古包に生活する事に甘じ、以て自己等の寄進に依り廣漠無一物の廣野に巍然たるラマの殿堂を作り多數のラマ僧を群居座食せしめ、高僧の笏の一聲は萬病を治し得べしと迄迷信しつゝある蒙古人、地平線の續く限り家なく樹木なく、太陽、月の出沒及ラマの高塔の外、何等變化として見るべきものなく單調なる一生を終るべき蒙古人にも「被壓迫民族糾合すべし」との標語の下に露露露露の勢力は駭々として浸潤し、共產政治は施行さるゝに至つた。爾來憲法

は制定せられ、議會政治行はれ、獨立共和國と化し、住民渴仰の中心たる活佛は其存在を失ふに至つた。

人民文化の低級なると、其政治組織の最も近代的なるとを比較すれば、實に奇異の感を催さざるを得ぬ、猴にして冠すとはそも此事か。

以下述る處は帝政露國の外蒙に對する侵略と、勞農露國の手に依り赤くなる迄の外蒙の状況である。之に依り隣邦近く亞細亞人の亞細亞に歐洲人の亞細亞があることが明となれば筆者の幸とする處である。

帝政露國と

外蒙との關係概略

一

帝政露國の外蒙に對する侵略的態度と、勞農赤色政府の外蒙に對する態度は頗る相似た

ものがあるが、此意味からして勞農露國は帝政露國の極東政策を其儘踏襲しつゝあるものと云へる。唯侵略の標語が違ふのみである。即ち前者は外蒙の自治一點張で、之れに依つて有耶無耶の内に外蒙を手に入れ、極東に對する野心を遂行せんとするに對し、後者は「被壓迫民族糾合」の美名を騎して、舊地に進むものである、其極東侵略の目的に於ては同一である、従つて赤色蒙古を研究する前に一應帝政露國の對外蒙態度を述ぶる事は、彼此相對照して相當興味ある問題である。

二

帝政露國の西伯利侵略は遠く第十六世紀に始まり、其後常に露支國境を侵略しつゝあつたが、偶々支那が伊犁地方に於ける回教徒討伐を行ひしを好機として、露國は一八七一年グリシヤを占領し、次で一八七九年ワリシヤ議定書の調印に依りグリシヤの一部は露國に歸した處が、本議定書を光緒帝が批准を拒絶した爲、露支間に將に戦端を開かんとした。遂に一八八一年彼の得堡條約に依つて解決する事となつた。此條約に依り露國は一時